明治四十二年四月二十日發行

(明治二十年十一月本會創立)

婦人衛生雜誌

第二百三十三號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第貳百參拾參號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

雜録

大日本婦人衛生會記事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會總會并春季懇親會告知

來五月一日(第一土曜日)午後一時より赤坂區葵町二番地總裁東伏見宮妃殿下御邸に於て晴雨に拘はらず本會總會を兼ね春季懇親會相催し候間左の各項御了承御親族御知友御誘引御來會被下度此段御案内申上候也

一會費　懇親會々費は御一人金五拾錢御同伴者亦同じ、但右會費は集金人差出し候節御渡被下度候

一御出席　御缺席さもに來二十七日迄に本會事務所宛御一報被下度御同伴有之候はゞ其御人數共（御出席の御通知有之候上は當日御出席の有無に拘らず會費御納被下候事）御出席の節は御宿所御記入の上名刺御持參の事

一選擧　會則により當日役員改選擧行致し候間二月分雜誌名簿により來二十七日迄に別紙投票本會事務所宛御差出有之度御出席の御方は當日午後一時迄に御持參のこと

一徽章　當日本會徽章可成御忘れなく御佩用の事（御所持無之方は會場にて御求可被下事）

一服裝　隨意

一履物　園内にては靴、草履、駒下駄の外は御使用なき事

擧行次第　（五月一日）

一午後一時　開會　一奏樂　音樂隊　一園内逍遥　隨意

一午後一時半　式場集合　一開會の辭　會長　一事務及會計報告　役員

一休憩　餘興　閉會四時半

明治四十二年四月

麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

○○電車は外濠線にて葵橋或は金比羅前御下車を便さす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得但し任中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員をして聽講[illegible]しむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會[illegible]場に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素を旨と[illegible]き事）●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を許す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には本會より[illegible]を得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべき限以て其會費を支會[illegible]り本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就き支會亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出さるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目廿二番地

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
幹事（いろは順）　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田總子
同　高木かう子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敏子
評議員　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穗積歌子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
評議員　子爵夫人　山口貞子
同　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
色川圀士君
醫學博士　伊東祐彦君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
赤十字社内科主任　岩井禎造君
醫學士　石原久君
醫學士　磐瀬雄一君
醫學士　石原喜久太郎君
男爵　濱尾新君
醫學博士　濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原四郎君
醫學博士　芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟　長谷川一詮君
小兒科　小原頼之君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　林春雄君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　緒方正規君
歩兵中佐　堀内文次郎君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　岡田和一郎君

醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
醫學士　渡邊房吉君
男爵　加藤弘之君
醫學博士　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅量君
醫學博士　樫田龜一郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　笠原光興君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　河野衛君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齋君
醫學博士　高木兼寛君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
[illegible]院長　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋貞[illegible]君
藥學博士　田原良純君
醫學士　田村光顯君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學士　米山彦郎君
二等軍醫正　星野篠光君
醫學博士　宮本叔君
三等軍醫正　横井忠國君
帝國教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　長與稱吉君
男爵　南部甕男君

醫學博士　長井長義君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學士　黒田玄適君
醫學士　栗本衛勝君
海軍中佐　小笠原長生君
醫學士　村松[illegible]三君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學博士　山口鐵藏君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
岡山　山川春二君
[illegible]技手　丸山長四郎君
ドクトル　松山陽太郎君
ドクトル　小此木信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉寶君
醫學士　古川榮君
東京　布施正顯君
男爵　後藤新平君
大學名譽教授　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棐君
寺田勇吉君
醫學士　寺田[illegible]作君
醫學士　寺田織尾君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寛君
ドクトル　富士川游君
高崎醫官長　土谷全次君
產科婦人科　水原漸君
ドクトル　久保田誠齋君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
醫學博士　朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　吾妻勝剛君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　[illegible]順次郎君
醫學博士　榊保三郎君
醫學士　佐藤得[illegible]君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　桐淵鏡次君
醫學士　北村[illegible]君
醫學博士　北島多一君
醫學博士　北川乙治郎君
醫學博士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學博士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　[illegible]君
ドクトル　須田[illegible]君
醫學士　澁川[illegible]君
醫學博士　木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　笹川三男三君
醫學士　波多野惇君
醫學博士　吳秀三君
ミス　リッデル
ミス　ヒユース
ミセス　コーツ
ドクトル　菊池循一君
醫學士　橋本左武郎君
醫學士　鳥居春[illegible]君
醫學博士　土肥卯三郎君
ドクトル　佐藤運雄君
ドクトル　西山信光君
醫學士　澤崎寬制君

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講演

精神療法の話

醫學士 森田正馬

今日は富士川さんから何か精神療法のお話をしたらどうかと云ふお話で御請合致しましたけれども、精神療法と言ふことになればどうしても醫者の事になりまして一寸お話するのが難ケ敷くなりますから、唯精神療法に少し關係した事柄に就いて或は御參考にもならうかと思ふ事をお話する積りであります。

それで先づどんな事をお話するかと申しますれば畢竟精神と云ふものはどんなものであるかと云ふ事を知る爲に第一に精神と身體との關係、次に精神と身體とが、外界の事情及び周圍の境遇に對しどう云ふ關係を以て居るかと云ふ事をお話して、從つて精神と身體の衛生及び治療法は此精神と身體と外界との關係あるを知つて其上に成立つと云ふ事などをお話して、それから尚富士川さんから御祈禱と精神療法と云ふものゝ關係と云ふお話をしたら宜からうと云ふ御注意でありましたから、終の方に其事を附加へて一寸お話する積りであります。

それで先づ精神と云ふものはどんなものであるかと云ふに之を精神と身體との關係から考へれば解り易くて又此精神と身體との關係は之を國家に譬へれば極く解り易からうと思ひます乃ち國家と云ふものは一の有機體であつて、國家の組織は人々の身體の組織の樣なもので國家としての活動は人の精神の活動の樣なものであります、尚この國家と云ふものは餘り複雜でありますから、もう一つ簡單にして軍隊に例へた方が宜からうと思ひます。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そこで軍隊の司令部と云ふ處は身體で言へば腦髓であります又斥候とか傳騎とか電信隊とかいふものは人間の五官或は神經などに相當して居る又た輜重兵のやうなものは軍隊に或は食物を送り或は衣服日用品などを送るものであつて、丁度人の消化機と循環機に相當して居るのです、又戰鬪兵即ち步兵、騎兵、砲兵の樣なものは我々の身體の六十五「プロセント」を占めて居る處の運動機關であつて、軍隊でも矢張り其大部分を占めて居るものは此戰鬪兵であります、其他小部分に亙りて比較しますれば一々相當して居るものがあります。

さう云ふ風に吾々の身體の組織は軍隊の組織と互に比較する事が出來る、吾々の精神のある處の本部は何處であるかと云ふと腦髓で即ち司令部である此總司令部は自分の軍隊の內部の狀態がどう云ふ風であるとか、或は外界に對してどう云ふ場合であるとか平和の時であるか、或は戰鬪の時であるか其時々の事情をよく知り之に對して種々の計畫をするとか或は戰鬪の方針を定めるとか從つて或は安心をしたり或は心配をしたりして畢竟自分の全體の境遇を意識して居るものは即ち此司令部のみであります、步兵や、輜重兵は只命令に從ひて進退し或は輸送するけれども全體の軍隊はどう云ふ事になつて居るか何の爲に斯樣な事をするのか其境遇に就ては意識しない乃ち我々の手足が唯腦の命令に由つて働いて居るのと同樣なものであつて、其精神のある所は內部の司令部で、人で言へば腦髓であります、其司令部が不規律なれば軍隊が亂れる、乃ち人で言へば腦髓が惡しくなれば精神が錯亂する、司令部の大將が斬られれば直ぐ其軍隊は瓦解してしまう腦髓が取り除けらるれば精神がなくなる、其他小兒の樣な未だ發育しない身體で機能の不完全なるものは同時に精神も薄弱である、健全なる精神は健康なる身體に宿ると云ふ言葉がありますが身體の已に發育して其器關及び組織が完全に調和して其機能を營んで居る時は其精神活動も完全であります。

次に我々の身體は或は軍隊であつても其一局部に障碍があれば必ず其全精神に影響する、例へば我々の日常經驗する如く心臟が亢進して、胸騷ぎがする時には精神が不安になつて心が落付かない、或は胃に瓦斯が出來るとか或は胃の働きが弱くなつて食物が胃に滯るとか云ふやうな場合には、精神が抑鬱して氣が鬱ぐ、或は鼻が詰まるとかいふやうな時は氣が散つて一つの事を纏まつて考へる事が出來ぬと云ふ樣に、一部分に障碍があれば、必ず精神にそれ相當に影響する事は、矢張軍隊の例でも同じ事であつて軍隊の一部分例へば或方面の部隊が苦戰に陷るとか兵糧の輸送が或方面に滯るとか云ふ樣な場合には其軍隊の全活動に影響すると同じ事である。

次に我々の身體の姿勢、運動、表情、さう云ふものは精神に必ず一定の影響を及ぼす、我々の姿勢が精神に影響することは催眠術を懸けた時に、一番著明に現はれる、卽ち拳を握つて人を撲ぐると云ふ樣な姿勢を催眠術にかつゝて居る者に保たせると其人が憤慨して怒ると云ふ樣な事になるし、悲しみの姿勢を保たせると其人が心から悲しくなると云ふ樣になるものであります。

教育上に關する事を一寸申しますれば少しく飛び離れた例でありますけれども昔は四書五經などを讀む時には本を汚穢くしてはならぬ、ちやんと姿勢を正しく嚴格にして本に向はなければならぬと云ふ樣にやりましたから、自然其四書五經の內容よりも、其姿勢を正しくして孔子樣を尊敬して居ると云ふ心持が道德を養成する基礎になる、今日のやり方は單に知識的で字を覺え、孔子の言はれた文句丈を覺ゆるに過ぎない唯だ物識になるばかりであつて精神に對する實際道德的の影響が少い昔の教の仕方は姿勢の方から非常に效力があるのです、又運動の精神に及ぼす影響は人は活動すれば精神が爽快になる、活動しなければ不愉快になつて其人は因循になつて仕舞ふ運動を好む運動家と、始終引込んで運動を好まない人との心持は非常に違つて居つて、一寸話をして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も同じ問題を解釋するにも其人の思想、決斷などがまるで違ふといふ風である。

又表情即ち我々の感情を表はす處の顔つき及び身體の運動が直接感情に影響する、或學者は吾々は悲しき爲に泣くに非ずして、泣く爲に悲しいと云ふ事を言つて居ります、それは全體に眞理を盡して居るといふ譯ではないけれども、兎も角一部の眞理を示して居る言葉であります、乃ち我々の日常經驗する處で、泣けば泣くほど悲しくなる、或は腹が立つ時怒れば怒る程尚更腹が立つと云ふ事は、明らかである、其時に泣く事を耐らへ又たは怒る事を辛抱すれば大概二日も三日も腹が立つと云ふ事は餘りないので、其表情を表はすと云ふ事が、感情を益々強くするものであると云ふ事は明らかです、昔から武士は泣かぬ、松王丸の泣く時には握拳で泣く、泣く時にはあの樣な泣き方をするが、却々泣かぬ容易に感情を起さないで之を制することが出來る、之に反して女の人は泣き易い、泣くにも笑らふにも有の儘に遠慮なしにやるといふ習慣から感情が脆くなると云ふ事に影響する、全體がさうではありませぬけれども兎も角も影響がある。

以上述たる如く我々の身體が精神に一定の影響を及ぼすと云ふ事は、是等の事實に由つて知ることが出來やうかと考へます。

是に由つて之を觀れば心と身體との關係は丁度空氣が身體であれば、風は精神で、空氣あつて風があり風があるから空氣のあるのが知れる又た世の中に物質があつて、之が化合に由つて熱を起す、熱は精神であつて物質は身體であると云ふ樣に、少しも離れる事の出來ない關係を持つて居ると云ふ事は、種々の事實に由つて證明される事であります。

それで詰り言換へて見れば精神と云ふものは物質が化合して熱を生ずる如く身體の一つの機能であると申してもよからふと思ひます。

次に心身と外界との關係　我々の身體と精神とは、全く周圍の事情と境遇とに由つて定められて居つて

周圍の事情を離れて精神はない、丁度太陽系があつて地球がある、太陽系がなければ地球もない、外敵がなければ軍隊が成立たない、世の中に我々人間があるのも、つまり周圍の事情境遇が之に適應して居るからであります、總て吾々は温度、光線、水、食物、さう云ふものが有つて始めて身體が世の中に現はれて來る、目に見たり耳に聞いたりする所の森羅萬象があつて始めて精神が現はれる、さう云ふものがなければ精神も身體も始から成立たない、從つて此心身と外圍との間には根本的の關係があると云ふ事が明らかです。

更に周圍の事情が精神に及ぼす影響はどんなものであるかと云ふ二三の例を擧げてお話すれば第一に五官に就て眼に見、耳に聽く處の五官の刺戟が、我々の精神身體に如何に影響するかと云ふと總て外界の刺戟は其性質と分量とにより必ず我々に一定の氣分或は感情を起す、感情は必ず一定の方則により呼吸器、血行、腺の分泌、消化作用、筋肉の運動表情に一定の反應を呈する、若し間違つた反應をすれば則ち病氣であります、軍隊に譬ふれば矢張り外界の刺戟が内部に影響すると同じ關係を持つて居る、即ち軍隊は斥候兵の報告に依つて露西亞兵が澤山に一師團も來たとか一小隊位來たとか或は向ふの方に見ゆるのは赤十字であるとか、味方であるとか、云ふことに依つて、此方の氣分が違ふし、それに對する活動が違ふと同樣に必ず一定して居る、五官の刺戟に關する例をお話すれば、赤い色が眼を刺戟すれば感情が爽快になり、筋肉力が強くなる、それは實驗心理に依つて證明することが出來ます、室内を赤くして置いて筋肉の運動の試驗をすれば何時でも筋肉は其働きを增して來る、青色を見れば感情が鬱する氣味があつて筋力が弱くなる、耳に聽ゆるもので言はば上野の鐘、破鐘の音、音樂の「メロヂー」或は長音階、單音階等に依て總て感情に影響し身體に影響する有樣が違ふ、チンチコ歌によつて小兒の睡る事はよく御承知の事であります。

又皮膚の刺戟に由つても同樣な種々の事實があります、或は又食物の方で言へば梅干を見れば唾液の分泌が多くなる、腹の減つた時に御膳の出るのを見ればお腹の蟲が啼くと云ふ樣に、乃ち腸の蠕動機が高まつて來る、斯の如く五官の刺戟が感情に影響すると同時に其感情は身體に一々影響する、例へば愉快の時と不愉快の時とは脈の形や數が違ふ、愉快の時には脈の形が大きくなつて强くなり、不愉快の時には小さく早く弱くなると云ふ樣に何時でも一定の變化がある、呼吸も同樣に或は深くなるとか淺くなるとかの違ひがある又非常に悲しんだ時には胃液などの分泌が少なくなつて消化不良を起し或は泣くにも涙がないといふ樣に總て分泌が少なくなり小用の分泌も少なくなる斯の如く總て身體に一々關係して居ります、其外少しく込入つた外界の關係をお話すると總て外界の境遇の心身に影響する事は植物でも動物でも同じであつて、無人島の鳥は人を見ても怖れない、捕はれる事を知らない、或は垣根の牽牛花の花が光の强い方に向つて咲くとか云ふ樣に關係して居る、それで吾々人間に就ては他人が見て居る時には人の居ない所よりも筋力の增すもので實驗心理で測定する事が出來る、僕等が年の行かぬ時に人の見て居る前では四斗俵をかつぐ事が出來たけれども人の見ない所で一人でやらうとすると却て持上らない火事場の時に氣違ひ力で大きな簞笥を女の人が持出したが、後になつて見るとても持ち上りさうにもしない、不思議であると云ふ例も屢〻ある、乃ち人が見て居るとか火事場とか云ふ樣な周圍の關係に由つて違うのであります其他面白い例は監獄の分房で一つ〳〵の部屋に一人〳〵の人間を容れて置くと神經質の者は往々にして精神に異狀を起し或は幻覺といつて無い物が見へるとか、誰も居らないのに人が見えたり、人の聲が聽ゆるとか、自分の名を呼ぶ樣だとか云ふ樣に精神に異狀を起す、又囚人を暗室に入れると云ふ事は、監獄で最も重い時の罰なので、暗室内の全く光線の無い處へ入れると一寸考へれば

左程苦しくない、緩くりして好さゝうなものだが、さうは行かない、大概一晝夜以内に精神錯亂して全く氣が狂つて仕舞つて話が分らないと云ふ様になる斯の如く人間を何物もなく人の交りの全くなき室に隔離するとか光線の全く通せぬ暗室に入れるとか云ふ外界の有様は、殊に直接精神身體に影響する事は明かであります。

又「ヒステリー」の患者で或は痙攣を起し或は非常に腹を立て易い感情が變り易いとか云ふ様な者を其複雜な家庭から離して病院に入れるとか、轉地をさせるとか云ふ様に周圍の境遇の變る事に由つて、そればかりで已に痙攣などの治るとか云ふ様な關係もあります。

先づ夫等の例に由つて吾々の身體と精神と外界と此三ッは極く密接な關係があると云ふ事は明かであります、されば外界の境遇、事情により我々の身體を強壯にする事も出來るし、又虚弱にし病氣にする事も出來る、我々が心と身體の衛生及び治療法を定めるのには常に此三者の互の關係を調節する事を忘れてはなりませぬ。

次に身體精神の衛生と治療の主眼は、何んであるかと云ふと心身に影響して害となる物は夫れを避け一方には心身天然の發育を促すと云ふ二つに歸著する此二つの手段を講じて初めて我々の心身の衛生治療が出來る、此天然の發育を促すと云ふ事の大部分を占めて居るのは廣い意味に於ける鍛練と云ふものであります。

今精神の衛生に關する事をお話しますれば先づ身體精神に影響する害物を避けるとはどう云ふ事であるかと言へば精神の方では今お話した暗室に入れるとか、分房に入れるとか云ふ様な事を避けることは勿論でありますけれども、外の刺戟の身體に及ぼす影響が過度であるのもいかぬ、弱いのもいかぬ、固より全く無いのもいかぬ、非常に強い光線の中へ人を入れても精神錯亂を起すと云ふ様に外界の刺戟の度を適度にしなければならぬ、惡るい刺戟といふのは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其性質と分量によつて定まるので性質とは光とか音とかで分量とは其光の強さとかを申すのであります。

今育兒に關する事に就いて例を取つて御話すれば幼稚園に行く位の子供ならば其子供に相當の玩具を選ぶと云ふ事が非常に必要であつて大人の見て面白ひと思ふものは大人の玩具であつて決して小兒の玩具ではありませぬ斯樣な事を餘り委しくお話する事は出來ませぬが、其他多くの人が子供を玩弄物視して彼方へ引張り、此方へ引張ると云ふ風になると子供の刺戟が餘り多くなり過ぎる、さう云ふ樣にして育つた子供は浮薄で、輕卒の者になる、又子供を規律なしに無暗に賞めたり、叱たり、たゝいたりするとよくないと云ふ事は明らかな普通の事であります。又青年にあつても其惡るい境遇が身體にも精神にも非常に影響を及ぼすと云ふ事は、普通の教育上明かな事であります。

次に鍛錬或は身體を錬習すると云ふ事は、昔から非常に澤山の格言のある事であつて、玉琢かざれば器を成さず、艱難汝を玉にす、鐵は用ゐざれば錆るとか、總て身體の機關は用うる事に由つて發育する、用ゐなければ錆ると、或は其働を爲さなくなる、吾人の身體にて著明なる例は、腕なら腕を怪我して骨折を起した場合なぞ之を繃帶して一月以上も動かさず、縛つたまゝにして置くと何時の間にか筋肉が其部分だけ痩せて仕舞ひ、終には筋肉の機能を忘れて動かなくなる、それで或る一定の日限の後は其繃帶を除けて他動的に動かしてやると云ふことをしなければならぬ此筋肉が痩せてしまう事を醫者の方では廢用性痟削と云ひますそう云ふ風に總て身體の機關も精神も其の通りで之を使はなければ衰へて仕舞ふ、使へば益々發育する其適當に使つて行くと云ふ事が卽ち鍛錬であります。

少し複雜な例でありますけれども、皆さんに多少關係があると思ひますからお話し致しますが精神的に育兒に關係した事で或人が幼稚園で生徒を觀察した

事を書いてありました、即ち幼稚園に於て此子供は女中などの多い家であつて、富裕な家であるとか此子供は女中のない家であるとか云ふ様な事が解る。女中のある家の子供は辨當を落すと直ぐ泣く少し着物に土が附けば泣く戸が開かなければ泣くと云ふ風で、一方の方は土が附けば自分で擦り落すし、戸が開かなければ押して見たり、引張つて見たり何處迄も自分でやつて見ると云ふ風に、子供の時から獨立心と云ふものが非常にある、土が著けば女中のある家では一々取つてやり、戸が開かなければ明けてやる、泣けば直ぐ機嫌を取ると云ふ様な、周圍の關係がさう云ふ風に子供に影響して居る、斯の如く周圍の關係が子供に及ぼす影響は大人よりも非常に甚しいのであります。

種々の例をお話して却て解らぬかも知れませぬが、仙臺ではジチズツの區別が分らないが、仙臺の小供が土佐の方へ行くと五個月位で早や此區別が出來る様になる、又土佐の子供が仙臺へ行つて居ると、間もなく其區別が附かなくなる、子供と云ふものは外界に適應するのに非常に鋭敏な働を持つて居る、大人は却々さうは行かぬ餘程口の遣ひ方を教へなければ出來ぬ、又育兒に關する例で朝鮮の醫者の文句に斯う云ふ面白い事がある兒生れて百日、燈火を滅せす、其兒長じて鋭敏なりと云ふ、朝鮮の醫者は眼病の時に小兒の小用で眼を洗らふと云ふ様な發達せぬ處ですが、此言葉は却々迂濶に聞きすてに出來ない言葉であつて、何う云ふ事を意味して居るかと云ふと、子供が生れて其小供を光線の適度に強い處に置き、燈火を點じて養育すると神經過敏にならない之に反して音も少しもない、光線も弱くつて、暖い着物を著せて養育した子供は、少し寒ければ直ぐ風邪を引く、少しガタ／＼音がすれば泣く、少し強い光線に逢へば驚くと云ふ様に、非常に精神が過敏になります。

それで子供の時から度が過ぎぬ様に適度に神經機能を刺戟してつまり練習すれば年がいつて後に神經過

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

敏にならないと云ふ事を此言葉の中に意味して居ります。

此精神鍛錬の事をまう少し申上ますが、此精神鍛錬の根本となるものは何かと云ふと、我々の感覺を練習する事であつて一般に精神鍛錬と云ふと、何か雲を攫む樣なものであつて、何か精神をこめて工風するとか研究するとか云ふ樣に思はれるかも知れぬけれども決してそうではない、只感覺の鍛錬と云ふ事が必要であつて、印度では特に波羅門教で非常に盛に行はれて又佛教の方では苦行と云ふ事があるが、或は岩の上に晝夜座つて居るとか水垢離とか火行とか云ふ樣なものがあつて其苦行は精神鍛錬の積りで苦痛の感覺を鍛錬するため夫が精神鍛錬になるのであります、尚ほ感覺の練習に就いて味覺、嗅覺、其他有機感覺（有機感覺とは内臟の感覺、血行の感覺とか消化機感覺とか筋肉の感覺、運動感覺とか云ふものを一般に名付けます）或は觸覺、是等は總て我我の生存上必要なる感覺であつて其感覺がなかつたならば生存することが出來ない例へば腹が減るのも腹の張つたのも知らない氣分の宜いのも惡るいのも知らないといふ事であらば生存は出來ない此生存或は榮養に必要なる感覺を適當に訓練する事が將來何う云ふ結果を來すかと云ふ事は、其人の勇氣、節制同情とか云ふ樣な極く善良なる精神の基となり、又健康の基となる、若し其習慣練習が惡い時には其子供は放逸、殘忍の人となり、不德の基礎を作り、不健康になり、神經質になる、例へば味覺卽ち食物を取るといふ事に就いても食物は、榮養の爲又精神訓練の爲にも共に一方にのみ偏してはいけませぬ、子供の時から徒に慾望の儘に甘い物計り與へるとか、或は子供に乳を四つになつても五つに成つても呑ませる、餘りに子供を大事にし過ぎて堅い物を食はせないとか云ふ風であれば却て消化器が弱くなる、子供は大人の樣に味覺が發達して居らぬから、何でも遣れば慣れてそれを好む樣になる、我々が食物の好き嫌ひは多くは習慣に由つて起る事であつて信州の

人は信州の鹽物が一番甘いといつてわざ〳〵信州から東京へ取り寄せて食たといふ例がある、其鹽物は東京から或一定の時日を經て行つた物であつて、或程度に腐敗して居るといつてもよいのであります、少し話が枝葉になりますけれども子供の時から自分を常に愛して吳れるものが美人の標準になるもので僕などもさうで僕の母は痘痕であつたが子供の時にはそれが一番美人だと思つて居りました。

次に痛みの感覺、寒い感覺と云ふやうなものも極く必要なる事であつて、昔から金持の子には餘り豪らい者は出來ないとか、孔子の所謂、飽食暖衣逸居して敎へなければ則ち禽獸に近しと云ふ樣に子供の時から餘り衣服を澤山に著せるのは只其子供に風邪をひき易くし身體を薄弱にする許りである、老人の養育する子は虛弱になり易いといふのは其老人の自分の寒さを直ちに子供に適用するなどからである、或る漁師が他のものに向ひてお前等は寒い〳〵と言ふけれども全體の身體を顏と思へば宜いぢやないかといつた事がある、顏は始終出して居るけれども少しも寒いことはない、近頃獨逸の或る學者に裸體主義と云ふ事を唱へて居る人がありますが人間は十分裸體で差閊はないといつて居る、人間は其身體を唯人工的に次第〳〵に弱くして來たので、動物は一の毛皮で夏も冬も凌ぐ、冬などは晝と夜との溫度の差が隨分大きいけれども、犬は風雨にさらされて同じ皮膚で調節して居る。

以上お話した處は一寸精神の衞生の樣な事をお話したのでありますが、此衞生によつて旨い工合にやつて行けば初めて身體と精神とを健康にする事の出來る根本となるのであります。

我々は病を治すより、病に罹らぬ方が必要であります、若し既に病に罹つた場合には療法がある、其療法とは病を壓伏し之を驅除する處の種々の手段であつて、藥物療法理學的療法など色々な療法がある、精神療法と云ふものは前にお話した身體と精神と外界との關係を基として病に施こす處の一の療法であ

ります。
さて此病と云ふものは昔から四百四病とか云いますし、今から二千年前程の印度の醫學では二千幾種の病があると云ふやうに兎も角も病の數は甚だ澤山であるが、皆各々一定の特徴がある、且つ各々其病に特徴がある上に其各人の個人性により又其人の境遇或は牛乳一合も買へないやうな貧乏人であるとか、どんな贅澤も出來る金持であるとか云ふ樣に境遇に依つて、各々性質が違つて居る、即ち其療法は其性質に適したやり方にするので、先づ其病を診斷して此病は何う云ふ性質であつて何う云ふ風に變化して行くかといふ事を知つての上でなければならぬ、斯樣な事を少しも知らずに療法を加へると云ふ事は世の中に有勝であるが、即ちそれは賣藥、加持、祈禱催眠術、鍼とか灸とか、云ふ樣なものであつて、譬へて見れば丁度藪の内にねらひなしに鐵砲を擊込んで鳥を捕ふと云ふやうな、少し惡口ではありますけれども、適切な例であります。

醫術の發達は何う云ふ風に發達をして來たかと云ふと、十八史略にあるやうに神農氏が百草を嘗めて初めて醫藥ありと云ふやうに何處の國でも同樣で初めは嚙み當てて藥が出來た御祈禱なども苦しひ時の神だのみで、別に一定の理論的の療法のない時は仕方がない支那などは現在も重に賣藥で病をなほし醫術と云ふものが發達して居ない、こう云ふ時代を賣藥時代と名付けても宜しいかと思ふ、今の世の中は開けて居りますけれども、其中に野蠻時代の遺物が殘つて居る、此時代から追々進んで來ると、病は何ものであるかと云ふ事を研究し、其病の何者たるを知つて、始めて一定の療法を加へると云ふ樣な時代になる、此時にあたりて其處に何んな弊害があるかと云ふと、今度は其研究された病と云ふものを一生懸命に癒す、病は癒つたが本人は死んだと云ふ事がある、さう云ふ樣な例をポツ〳〵認めるそれで近來に至つては個人的療法と云ふことを追々主張するやうな事になつた即ち個人に依り其人々の性質や狀態で

療法の遣り繰りをしなければならぬ、其病を治しても其當人が死ねばいかぬと云ふやうに、追々進んで來たのであります。

今日此最も進んだ醫術に據らずして種々の賣藥とか祈禱とか云ふものゝ行はれるのは、蒙昧野蠻の遺物であつて、例へば丁度當り前の人の中に白痴がある様なもので此白痴は野蠻時代の遺物であります。

精神療法とは、一口に言へば、精神と身體と外界と三つの關係、精神の病理を基礎として其上に成立つた種々の手段であつて、之れに依り身體の病、或は精神の病を癒すので催眠術も其精神療法の一ッであります、此精神療法はまだ多くの人から輕蔑されて居て、醫者でない文學者の中では精神的療法が必要であるなど言ふ人がありますけれども總て文學的であつて我々のいふものとは根本的に違ふのである、醫者としては西洋でも之を研究して居る人は甚だ少く、精神療法の書物に成つて居るものは獨逸で今迄只二ッしかない、日本でも精神療法を研究する人は醫者には極く少ない様であつて唯だ病の何者たる事を知らない文學者の間に說くのみであるといふ事は遺憾であります。

精神療法は何んな方法であるかと云ふ只一二の事項だけを擧げて見ますれば、或は生活法の調節、即ち生活の有様を其人に應じて適度にし其仕事の仕方などを旨い具合に定める事、或は精神の轉導法、即ち精神を他の方に導き向ける法或は注意集注法、即ち精神を一方に集めて仕舞ふ法或は精神の安靜法、或は精神の操練、或は感動法、或は醒覺暗示法、例へばお前の病は癒るとかいふ事をいふて聞かして其事を病人に信じさせる子供が倒れて怪我をした場合に癒つた／＼ちつとも痛くないと言ふと、子供は安心して泣かなくなる、斯様な色々の方法があります。

今其精神療法の一ッ二ッをお話致しますれば生活法の調節と云ふ事に關しては、諺に保養と怠惰は似て非なるものと云ふ様に例へば或る慢性の病などでは保養して益々惡るくする、即ち病の養生はしないで

怠り勝になつて、身體を益々虛弱にする許りであるといふやうになりますから、醫者は常に只簡單に患者に對し貴方は餘り勉强してはいかぬ、ゆつくりと保養して居なければならぬといつた許りでは其養生の仕方は少しも分らぬ、何時でも其病に應じて、規律正しく生活をするやうに、生活法を定めてやると云ふ事は精神療法の一番必要な條件であります。

次に精神の轉動法に就いて、世の中の人が間違ひ勝である事を一寸お話しますれば、精神病で言へば氣が鬱ぐ鬱性のものに普通の人は之を癒さうとして、或は芝居とか淺草とかへ連れて行き、氣を紛らさうとする是は極くよくない事で何時でも唯益々惡るくする許りである、斯樣な時には只其患者をそつとして置て色々關渉してやらぬ方が最もよい。

又神經衰弱の樣な人に氣を轉動する爲に、旅行をする方が宜しいと言つて醫者であつても能く患者に此事を勸める人がありますが病症によつてはそれが却つて惡るい事がある、卽ち患者は此等のために氣を轉ずるではなくて徒に心と身體とを過勞して苦しむ許りである、或は子供の死んだ阿母さんの處に行つて之を慰めて諦らめさせてやらうと思つて種々の言を言ふ、若し其見舞人が下手であつた時には慰めて貰らふ阿母さんは何時でもうるさくてたまらぬけれども其人に對して義理で辛抱して居る事が屢々ある卽ち下手よりは寧ろ慰めざるに如かずである、斯の如く此精神轉動法の間違つて應用せられて居る場合が普通の世間に有勝ちであります、さう云ふ場合に何うするかと云ふ事は此處でお話する時間はありませぬ。

其他又普通の人にもあり特に病的の人に多いのは或る苦しい苦悶の考が起る事がある、それで患者ば自ら忘れたいと思ても忘られぬ、取除けやうとしても取除けられぬ、さう云ふ樣な場合に人が貴方は神經ちやから自分で自分の心を治さなければならぬなど忠告する併しそれが若し自分の心で癒すことが出來るならばそんな忠告はなくとも自分の方でも治さう

として居る、即ち此場合には必ず外に色々の方法がなければならぬ、さう云ふ場合に自分の神經が惡るいから自分の心で取直さなければならぬと云ふ事は全く無理な相談であることを免れぬ。

此精神療法に就て多くの人の思ひ違ひ易いのは精神療法に我々が言葉を以て説諭すると云ふ事は極く僅かな範圍であつて、種々言ひ聞かすと云ふ事は、精神療法として非常に少くない、又加持祈禱をする人或は醫者でなく病の事を知らないで催眠術を使ふ人の感通作用とか云ふやうな迷信的のものではない、即ち精神療法とは主として病人を一定の境遇に置き或は精神に一定の刺戟を與へて精神身體にそれだけの反應を起さすと云ふことであつて、決して迷信的のものではない、催眠術は我々が始終之を使つて、病を癒すに便利でありますけれども、病の何物であるかを知らないで無暗に催眠術を懸けるのは、例へば其人間が非常に瘠せて居るから口から牛乳や御飯をドン／＼詰め込んだと云ふ風であつて藥も毒になる事を免れぬ事と思ひます。

次に加持、祈禱、卜筮、禁厭などの事を少しく御話し致しますが是等は世間至る所に澤山あつて田舍よりも却て東京に能くはやる樣で、町を通つて居ると何々講とか言つて無暗に澤山の札を貼つて居る家があります、加持、祈禱、卜筮などは同じ種類のもので加持とは眞言宗でいふ事であつて御祈禱は神道の方であります、呪咀と云ふやうなものは矢張宗敎から出たもので、卜筮は孔子の易經は非常に立派なものであるけれども、其應用が弊害となつて當るも八卦當らぬも八卦とか云ふ樣なものになつて居る、さう云ふ樣な事は日本ばかりでなく、世界孰れの國にもある事である、迷信と云ふものは未開の人間に自然に起るものでそれが今日に殘つて居るのであります、禁厭の一つ二つの例を引いて皆さんに極く便利な禁厭を月謝なしに敎へて上げますが、諸病を治す法で何んな病でも癒ると云ふ禁厭がある、それは一つの大きな棗を採つて華表柱念と云ふ事を七度唱へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て天に向つて息を吹懸けて之を患者に食はせれば如何なる病も立ちどころに癒る、又歯の痛い時には斯う云ふ禁厭がある。

有二
作口

二四七鬼

唸急如律令

かう云ふものを書いて歯の痛い所に當てれば歯痛の癒ることと疑ふべからずである、又我々の子供の時阿母さんにもやられたが怪我をした時阿母さんが啊吡囉吽吽と言つて其痛む所を吹ひて呉れる、それは此言葉の意味を知つちやいけない、知らない處に效験がある、啊吡囉吽吽は印度語で、地水大風空といふ事であります。

又小用の通じの惡るい時に田螺を摺潰して臍に貼るとよく通ずるとか云ふやうな事がある、又頭痛の時には昆布を煎じて髮を洗ふとか云ふ事もある、禁厭見た樣な藥見た樣なものであります、此禁厭と云ふものは其意味を知つたら利かない、知らない内に利くのであります。

加持はどう云ふ事をするかと云ふと種々の遣り方があつて、各々其式に順ひ呪文を唱へ經文を讀んで患者の平癒を祈るのであります、加持行者は自ら全く邪念を去りどうしても患者を癒さなければならぬと云ふ大信念を起して觀念をこらす、其時の行者は何う云ふ心持で居るかと云ふと文句は忘れましたけれども、其意味は施主は是れ金剛薩陀行者は是れ大日如來なりと云ふ即ち患者は迷を脱せない凡夫であつて、自分は悟を開いた大日如來であると云ふやうな覺悟で一生懸命で祈ると其效験を現はすといふ、それが即ち加持であります、それより外に何も理窟はない、又影加持と云ふて患者に知らせずに影でやる加持があります、之も唯一生懸命で患者を癒すと云ふ大信念を懸けてやつて居る、私も年のゆかぬ時一度足の痛のために、之れをやつて貰つたが罪障の深い爲に效験がなかつたのであります、昔から耶蘇基督、釋迦、弘法大師と云ふ人は評判の人であつて、

其奇蹟が種々遺つて居る耶蘇の袖が障つたら躄が立つたとか云ふ樣な例はバイブルにも澤山あります。御祈禱の方では神樣の前を神聖にして鏡や御幣、榊を立てゝ非常に嚴粛な聲色で祈つて患者を癒すと云ふやうな種々な面白い事がありますが、迷信は何時でもさう云ふ事を皆感通作用で此方の精神が傳はるのであると云ふ、其感通作用は何う云ふ場合によく行はれるかと云ふと其祈禱者の信念が強い程よく行はれる、若し或人が加持祈禱をして病人が癒らなかつたら、それは加持した人の信念が薄かつたから癒らない、又若し癒つた場合には其人の信念が強かつたから癒つたのであると其一手の人は常に必ず斯樣に申譯をする、つまり我々に言はせると感通作用と云ふものは其病人の迷信が強ければ強いほど效く鰯の頭も信心と云ふのは此事であります、醫者の方でも此樣な例が澤山ある乃ち非常な評判の好い大家が田舍へ行つて藥がなくつて水を飲ましてやつた時、腹の痛が止つたとか或人が支那へ行つた時に藥を呉れろと言はれて齒磨粉を遣つた處が、腹痛が癒つたそれを聞き傳へて其邊の誰れ彼れから藥を呉れろと言はれて困つたさうです。

併しそれは病が癒ると信ずる處の信念ばかりで、つまり身體と精神との關係上に於て癒つたと信ずれば其苦痛をなくする事が出來る、どうして斯樣な事が出來るかと云ふ事は心理學的に說明しなければ解りませぬけれども、此處ではお話する時がありませぬ而し之によつて只其痛が癒つたと云ふだけで其病氣は癒らない、催眠術で齒の痛を止める事も出來る、祈禱でも其人が信ずれば其痛が癒るけれども、其根本が癒る譯ではない。

それで是等の事が何故に迷信であるかと云ふと、つまり我々の學問的の統計と云ふものに據らず、論理的の判斷によらずして、妄斷であるからである、卽ち統計であれば何んな病が如何なる方法で幾何癒つて幾何癒らないとか云ふ事を知り、初めて正當の判斷をする事が出來ますけれども、加持祈禱をやる人

は多くはそうでない例へばこゝに病人がある何の病か知らないけれども、一つの病が癒つた、それ故に總ての病が癒るべきものであると云ふ樣な結論であるから迷信たるを免れぬ、催眠術の方は勿論其出處は違つて居るけれども此加持祈禱の樣なものゝ純粹にされたといつてもよいものであつて、其性質は甚だ相似たものである、例へばコカインと云ふ藥は昔亞米利加の土人がコカといふ木の葉を齟み口の渴きとか疲勞とかを治すものであつたが之から精選してコカインが出來たと云ふやうな事と同樣な事である催眠術はどんなものかと言ふと或る手段を以て患者を無念無想にして置いて之れにお前の病は癒つたとか、痛は全くなくなつたとか云て聞かして無意識の觀念によつて病症を癒す一つの手段であります、併し催眠術は、モルヒネで痛が癒ると同じ樣に痛いとか苦しいとかいふ容態が只一時去る計りであつて形のある病の根本が治る譯ではない、此迷信と云ふ事に附け加へて、まう一ツ近頃評判になつて居る食物療法と云ふものに就てお話したいと思ひます、此食物療法といふふれこみで或人がやつて居りますが私は家族と共に其處へ食物療法の指圖を受けに行つた處が、其食物療法の先生一と目僕を見て出し拔けにお前は通じが惡るい、足が冷える、さう云ふ風じやからいかぬ、お前は是から種々うまい物を食つちやいかない、胡麻鹽で茶漬飯を食はれるだけ澤山詰め込めと云ふ言を指圖されましたが、私は其先生が如何なる診察をして如何なる處置をするかと云ふ事を實驗する爲に一人行つては比較が分らないから家内も一緒に閑の時を選んで其處に行つた譯であります處が今御話した樣に數分時間を要さないで出拔けに宣告するのである、其人は單に菜食主義に過ぎないといふ迄であります。

西洋にも食物療法はありまして、それは系統的に、學問的に、如何なる病には如何なる食物を要するとか云ふやうに研究して居る、今御話した食物療法の先生が僕に對しお前通じがないと言つたのは全く反

對で僕は毎日非常に正確に通じがあるし、足も暖かで足袋も人並にいらない程である、それは一日して斯樣な事の分らないのは當り前で當るのが五ッ、當らないのが五ッであるべき筈である、僕等が患者を診る時にはあなたは通じがあるか食がすゝむかなどと聞く、其食物療法の人はお前は通じがないと斷言する、其遣り方は全く氣合であつて斯う云ふ風に言はれてそれが當た時には患者は全く感服してしまつて益々豪らい人だと思ふて多くの人は迷信に附込まれる、若し私ならば先きに容態を聞くと云ふ具合であるから自然素人から餘り有り難く思はれないのである。

種々要領を得ぬお話をしましたが、終に臨んで一言病の治療と云ふ事に對してお話したいと思ふのは凡て人間が、利慾に迷ふために或は何時までも老いず何時までも死なゝい不老不死の藥を求め、或は七福神にお願立をして勞せずして何萬圓の財產を儲けさして呉れ御禮には蠟燭を上げるとか云ふやうな蟲のよい相談をしたり、或は一寸一服藥を貰つて年來の持病を癒して貰ひたいと云ふやうな考は、利慾に迷ふ人間の弱點から起る事で、此方から迷信を以て迎へるから需用あれば供給ありで、其迷信を使つて自ら爲にする人間が澤山出來て來る譯であります、さう云ふ風の考を以つて持つて行くから神も佛も藥も少しも效能がない、唯貧乏の病は一生懸命に働いて居れば癒る、稼ぐに追ひ付く貧乏なし、病も其通りであります、一生懸命で治療すれば如何なる病も癒る、一服の藥や御祈禱では癒らない。

親の因果が子に報ひて居る所の先天的の病でも、後天的の病でも第一先づ病に罹らぬ用心が必要であつて、若し罹つた時には病の輕重により難易の差別こそあれ肺病でも何でも平常からの用心と勇氣と勉强とに依て之を癒すことが出來る、總て病には固より通常の療法は必要であるが其外に此心と身體と外界との關係を知つて行ふ所の衛生治療法の必要である事を御承知を願ひ成るべく迷信でなく正當の道によ

つて行かれん事を希望致します、詰らぬ要領を得ないお話で長く時間を費しまして御氣の毒で御座いました。

叢談

人の發育時期と病氣

醫學士　渡邊房吉

我々の身體が完全に發育し終るまでには、いろ〱の發育時期があるもので、此時期は必ず一定の身體の變化と其發育狀態とにより明確と區劃されるものであります。此身體生活上に於ける

第一の發育時期は所謂初生兒の時代

で、今まで母の胎内にあつて母の身體の一部分であつたものが、今や之とは分離して獨立的の個體となり、只その榮養のみを母體から仰ぐと云ふ時代であります。誕生と云ふ瞬間に於ては急に嬰兒の身體に著るしき變化が起り、體内の必要なる臟器は全く今迄とは打つて變つた作用をなす樣になります。即ち呱々と云ふ聲と諸共、始めて肺が働いて最初の呼吸をなし、此最初の呼吸と一緒に血液が必ず肺を通過して、肺の中の空氣から潔められる樣になり、母體の血液から供給されて居つた榮養は母の左右の乳房から仰ぐ樣になります。今まで母の子宮内で羊水と云ふ液體から圍まれて居つた皮膚も、今や空氣と直接に觸れ從て著さ冷めたさ痛さ痒さを感する樣になり、舌も味ひを覺へ、鼻も臭ひを感じ、眼も物色を見分け、耳も音響を聽き取る事の出來る樣になります。

第二の發育時期は所謂生齒期

で、生後七八個月を經て先づ門齒から生へ始め、漸次生へ揃ふ樣になります。此時代の齒を乳齒と云ひ上下合せて二十枚のものであります。齒の生へ初めると云ふのは、これから漸次飮ませる乳の分量を減

らせと云ふ自然からの命令で、小兒自身も最早や母の乳ばかりでは物足らぬ樣な感じを起す時であります。從て此時期になると、自ら食を求むると云ふ獨立心が涌いて來て、種々の玩具などを拾ひては口に入れ、或は食を求むると云ふ必要より這ひ廻ると云ふ運動をなす樣になります。

第三の發育時期は生齒交代期で、今まで生えて居つた二十枚の乳齒が一つ〳〵拔け代つて、所謂永久齒となる時であります。此生齒交代は通常六歲乃至八歲頃にあるもので、之と共に益々身體の獨立性が增し、力も強く、身長も大きく精神も益々發達し行き模倣力、思考力、想像力、記憶力なども頗る盛んになつて來ます。

第四の發育時期は所謂春氣發動期で、身體は今を盛りの花の如く、散りも初めず咲きも殘らず、美と若やぎと元氣とは、滴る計りに滿身に溢れて居ります。その外生殖と云ふ機能も恰も野邊の若か草の如くに、萌え出で樣として居ります精神上の發育も亦た之に準じて、高貴、神聖、雄大なる理想に向て熱心に憧憬れる樣になります。

初生兒から春氣發動期に至る此四個の發育時期には上記の樣な截然たる區劃があつて、各期時に固有な特徵と云ふものがあるが、病氣の發生及び其經過に對しても此發育時期の影響する所決して少くはありません。或種の病氣は好んで或る發育時期のみに生じ、他種の病氣は又好んで他の發育時期のみに生ずると云ふ事があります。たとへば第一發育時期には痲疹や猩紅熱と云ふ樣な流行性の皮膚病に罹ることが割合に少なく、第二及び第三發育時期には腦病に侵され易い傾きのある樣なものであります。

病氣の經過に就ても亦た夫れ〳〵の特徵があり、炎症性の病氣などであれば小兒の年が弱ければ弱い程死ぬのも早く、治癒るのも亦た早いものであります。たとへば初生兒の肺炎は危險此上も無い病氣でやゝともすれば小兒の生命を奪ひ去るものであるが、一旦其治癒に向ふや誠に一瀉千里と云ふ勢ひで

あります。

神經衰弱とかヒステリーとか云ふ神經性の病氣は、得て春氣發動期に生じ易く、從て此時期には失戀とか落第とか云ふ些細な事情に、甚しい心の中の反響を起し、煩悶だとか理想だとか云ふ美名の下に、或は淺間山の煙と化し、或は華嚴の瀧の泡沫と消へ果つる親不孝が多い、今日迄爺さんが華嚴の瀧に瘦せ我慢の樂觀を唱へず、婆さんが杖を曳いて淺間の山頂に上らぬと云ふのは、全く以上の關係のあるからであります。

同じ神經性の病氣と云つても、小兒期とあれば得て搐搦を起すもので、身體の何處に病氣があつても之を起す事が多いものであります。眩暈の如きも小兒期には少くて、春氣發動期に近づくに從ひ多くなるものであります。

手と指と爪と（中）

H、K、生

手の荒れ性—油手、水むし—霜やけ、ひゞ、あかぎれ—瘭疽

手の荒れ性　手の肌質の良し惡しは其方のお品格に取つて誠に大切な關係のあるものであります、隨分水を御使ひになる御方でも、不斷の御心掛一つで手の肌質が少しも荒れた樣に見えぬ方があります。手の荒れると申す事ば肌觸りが始終ざらざら、して誠に心持が惡い許でなく、小なさ裂傷や擦傷が出來易く、隨つて夫から色々な黴菌が入込む虞があり衞生上から言つても誠に宜敷ないのです。手の荒れる原因を考へて見ますとざつと次の三つから起るのが多い樣であります。第一には御使になる水の質がよくない場合、第二には石鹼が粗造品であるか、或は夫を餘り餘計に使過す場合、第三には其方の本來の體質による場合などであります。

第一、水の質、水に硬い水と軟い水との二通ある事は皆様も十分御承知の事と存じます、硬い水と申すのは様々の鑛物質取分け石灰分が澤山に溶けて居る方、軟い水と申すのは鑛物質の溶けて居る分量の成だけ少い方であります、其内硬い方の水は肌質の爲から言へば誠に良くないので、久しく之を使うて居る間には悉皆肌質が荒らされて仕舞ます、之に反して軟かい水は肌質觸りが誠に緩やかで決して肌の荒れる様な事はありませぬ。地から涌出る水の中には地層の中にある様々の鑛物質が澤山に溶けて居ますから、隨て堀拔きや何かから涌き立ての水は何程か硬度が高い理であります。斯云ふ工合に地中から涌出た當時は地層の狀況によつて多少の差こそありますれ、水は皆相應に高い硬度を持つては居ますが、夫が一旦地上に涌き出てから空氣に曝らされますと水の中の石灰分は空氣中の炭酸と結附て水に溶けぬ様になり、澱となつて底の方に沈みます、ですから久しく空氣に曝らされて居るうちには水は石灰や何かの分量が段々に減て遂には石灰分の極めて少い所謂軟い方の水になつて仕舞ひます、河水や水道の水が堀拔の水に比べて遙かに軟いのは此理由に基くのであります、我國でも西洋でも雨水はお化粧に一番よろしいと云様な事を申し傳へて居ますが、是も丁度此理に合つたもので、畢竟雨水は空から降て來るものですから石灰分や何かを含む事がなく、各種類の水の中で最も軟い水であるからであります、我國の南の方の海にある絶島や地中海の島々の様に平生天水を溜めて使ひ水に致して居る地方では婦人に肌質の美しい人の多いのも或は同じ理によるものでありませう、ですから手の荒れ易い方は水道のある所では成るべく水道の水を使つて井戸の水を使はぬ様に、又井戸の水を使ふのにも酌んで暫時經てからのを使ふ位になさるのがよろしい。

夫から水は何程軟かでも使ひ方に注意を致しませぬと矢張手を荒らさせます、餘り冷い水では手の皮膚が收縮して皺の間に這入込んだ垢が取れ難くう御座

いますが、夫かと申して餘り熱いお湯ばかりを使慣れますと早くから手に皺ができ易くなります、ですから是は如何しても微温湯にかぎる樣であります、水を温めると申す事は外に水を軟かにする働きもありますから猶更肌質の爲には宜敷いのです。

第二、石鹸、石鹸は本來は脂肪酸とあるかりーと、夫に極く僅かな遊離ぐりせりんを含で居るべき筈のものであります、夫が粗末な品になりますと、或は脂肪酸の分量が割合に多過ぎたり、或は又あるかりーの方が勝つて居たりする事が珍らしくありませぬ、脂肪酸の多過ぎた石鹸は使つても少しも石鹸としての用をなしませぬ、又あるかりーの多い石鹸では、あるかりーと申す物がもともと強き物を腐蝕せる働きのあるものですから皮膚を甚く刺戟して夫を損ずる事が夥しく、使つた後では皮膚がざらざらに荒れて仕舞ひます、ですから石鹸は矢張成るべく信用のある精良な品を御撰びになる事が大切であります。

次に何程質がよい石鹸だからと申して無暗に御使になつては之又却て肌質を惡く致します、申す迄もありませぬが、手ばかりではなく人の身體には何所にでも皮膚の組織のうちに皮脂腺と申して脂を分泌する備へがありまして、夫が毛の根に開て居て其泌みでる油で皮膚がしなやかに軟ひで居るのであります。夫ですから石鹸を餘り甚しく使ひすぎますと手に附着て居る垢や埃許でなく、生理的に大切な此本來の油氣まで悉皆洗ひ落されて仕舞つて夫で手が荒れる樣になります、ですから石鹸を御使になる折にも餘り甚しく使ひ過ぎぬ樣に御注意が肝要であります。

第三、本來の荒れ性、本來の生れ附きで少し許水を使ふとか石鹸を使ふとか致しますと直に手の荒れ易い方があります。是は大抵前に申上た皮脂腺からの油の分泌るのが十分でない爲に起る場合が多い樣であります。其外身體の榮養が惡く皮膚の表面が角質に變ずる事の早い爲に起る場合もあります、隨つて

肥滿つた方にはなく大抵は痩せた方に限つて見受ける樣であります。恁云ふ方は成るべく手を餘り洗ひ過さぬ樣に注意を致し、特に石鹼の使用を控目になさる事が大切であります、石鹼を使ひますと猶更手の油氣が洗ひ落されますから斯云質の方は石鹼よりも寧ろ性質の良い洗粉を御使になる方がよろしい、洗粉は石鹼から見ますと膚觸がずつと柔かですから是ならば手の荒れる氣遣はありませぬ、普晋の洗粉は重に糠や麩の粉の樣なもので拵へ夫に硼酸を交せ又香を附けたものであります、併し洗粉として最もよろしいのは次の割合で拵へたものです、是ならば拵へ方も手輕ですから何方でも御宅で御拵になる事ができませよう。

硼酸	一分
白大角豆粉	二分
れもん	數滴

夫から手の荒れ性の方はお寒い時節は勿論、其外の時でも手を洗つたらすぐ其後で、りすりんを水で薄めたのをお塗りになれば效目があります、併し是は粘り氣があるので餘り心持のよいものではありませぬ、其代りにべるつ水を掌に垂らして手になする樣になさればよろしい、べるつ水の處方は次の通りであります。

苛性加里	一ぐらむ
ぐりせりん	二〇ぐらむ
あるこーる	二〇ぐらむ
べるがもっと油	五滴
蒸餾水	一六〇ぐらむ

或は又次の割合で作てもよろしいのです。

硼酸	四ぐらむ
ぐりせりん	二〇ぐらむ
あるこーる	一〇ぐらむ
薔薇水	一〇〇ぐらむ
蒸餾水	七〇ぐらむ

以上の化粧水は手の荒れるのを防ぐ事は申す迄もなく、其上に皮膚の色艶を美しくする效能もあるもの

でありますから荒れ性の方は是非之を用意して置てお塗りなさる方がよろしい。

油手　是は前に申上た荒れ性の方とは反對に手の皮脂腺や汗腺の働きが盛過ぎて油や汗の分泌が多く夫で手が始終ねとねと致して居るのです、お暑い時分は申す迄もありませぬ、假ひお寒い時節でも恁云方は暫らく火鉢に手を翳してでも居ますと、掌が丸で濡手の樣になる位なものもあります、西洋の方では特に手を握て挨拶を致されますので油手の方は一層困る相であります、そうでなくても物を持つたり握つたり致しますのに手の當つた處に汚斑を拵へる患もあるので誠に厄介なものであります、其外に又皮膚が始終濕めつて居ますと其所が軟くなり取分け指の股などが白く汚く爛れて皸裂ができる樣な事もあります、此樣な油手は多くは太つて脂ぎつた方に見受ますが又甚しく痩せて貧血してる方や神經質の方にも隨分と見受けるものであります。油手の手當は内服して汗を止める樣な藥劑もありますが其利目は久しく續くと申す譯には參りませぬ、一番手輕なのは毎日一回宛ぶらんでーに牛乳を混ぜて呑むのも效目があるとしてあります、油手の方は成るべく清潔にする事は勿論、其外〇・五％の單寧酸酒精、一％の水楊酸酒精、一〇％のなふとーる精などで洗ひ、或は一〇％なふとーる、でるまとーる等の粉藥を使ふのです、或は次の處方もよろしい。

ざりちーる酸	一・五
澱粉	五〇・〇
滑石	四五・〇

中にも平生用意して置て一番便利なのは次のリーブライヒ氏の溶液で是を掌に垂らしてよく揉めばよろしいのです。

えーてる精	五〇・〇〇
安息香酸	七・〇〇
わせにりにー	〇・〇五
へりおとろぴにー	〇・一五

水むし　是は足にもできますが手にできる方が多

く隨つて手の外觀を損する事も少くありませぬ、手の指の股などが甚く痒く其所に小さな水疱ができ、或は其水疱が幾つも集つて夫が潰れますと爛れた樣になる事もありますが、大抵は其水疱が皮膚の角質層の中にあるので、夫が潰れても濕める樣な事は少く只其部分の皮が白く乾て剝がれる樣になります。是は仲々頑固な病氣でありまして且一度治つても又再發し易いものであります、そして重に春の暮から夏の始めへかけて起る事が多い樣であります。此病氣と汗との關係はまだ研究が充分には行屆ては居ませぬが一般に油手や油足の方に多く、且假へば夏中足袋を穿て居るとか申す樣に總て手足の『むれる』と云事が此病を惹き起す原因の一らしく考へられます、水むしのでき易い方又は輕い水むしに罹つた方は朝晩の二回硼酸水の中に約そ十五分許も手を浸けて居れば效目があると申す事であります、其他又平常手に左の處方の藥を塗つて置くのも效目があります。

れぞるちん	二・〇
阿列布油	二・〇
硫黃華	一・〇
安息香丁幾	一五・〇

夫でも猶效目のない時には矢張餘り擴がらぬうちに醫者に御相談なさる方が安全です、是には色々效目のある膏藥などもありますから注意深く治療さへ致しますれば確かに根治する事ができます。

霜燒け、ひゞ、あかぎれ　此三つは同じ原因でできて互に似寄つたものであります、重に手に就て申述べますが是は年の幼い皮膚のまだ柔かな小供や貧血の方、其外寒さに對する手の養生を怠る人などに多く見受けるもので、一度之に罹つた方は注意を致しませぬと何冬之を繰返す樣になります、寒さに對する抵抗の弱い方では、暫く寒さに曝らされますと手の重に背の方が、先づ始めには血管が收縮するので貧血を起しますが、其うちに血管も痲痺れ初めますと今度は前とは反對に血管が擴張致して鬱血を

起し、其結果として赤味がかつた赤色を呈し回り一面にむくみが現れるのです、そして其部の皮膚が張切つて薄くなり、灼ける樣な溫りと激しい痒味が起り、搔けば跡が甚く痛む樣になります、特に手を少し許り溫めるとか夜分寢牀に入てからは誠に堪難い程痒くなるのであります。是迄申して參りました症狀は丁度霜燒に相當るのですが、此症狀が更に激くなるか或は手當を加へずに久しく打棄てゝ置きますと、遂には其部の中程が爛れて汁を漏らす樣になり、其傷の出來所が丁度手の指の關節の上か二本の指の間に當るとひゞ、あかぎれとなるのであります、位置が位置ですから傷が始終引き釣られ其痛みは又格別であります、此の潰傷の出來る症狀よりもつと重くなりますと、其部分が全く紫色又は眞黑になり冷え切つて感覺もなくなり仕舞には骨まで侵す樣な事になります、特に手の凍傷では壞疽れた部分の脫落る事が極めて緩つくりでありますから、其間には多量の腐敗產物が血液の中に吸取られ、夫が全身に循環つて膿毒症と申す恐ろしい病氣となる樣な事がありますから、若しも霜燒けの傷ができた時には一日も早く、十分なる手當をなさらなければなりませぬ。

每年霜燒けに罹り易い方では、先づ平生から貧血を治す樣な手當を致し、且襦袢の筒袖や何かで手や腕の窮屈に緊められる樣な事のなき樣にし、その上に手を成るべく寒さに曝らさぬ樣にすればよろしい、又手が甚く凍えた樣な時分には夫を急に溫めるのは却てよろしくありませぬ、一應其部を雪か冷水かで激しく摩擦し、熱くなつて物の觸るのが覺える位になつて始めて羅紗かふらねるかに包んで追々に溫めるのであります、霜燒けは輕症の間であれば少し許り醋を加へた微溫湯の中に手を涵ければ治ります、又靜かにまつさあーじを行つた後で薄く豚の脂肪を塗るのもよろしい、又石油や沃度丁幾、ころじゆーむを塗るのもよろしい相であります、又あかぎれになつたものには次の處方の藥を塗ればよろしい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

硝酸銀　〇・一一・〇
べりゆーばるざむ　一・〇一三・〇
單軟膏　五〇・〇

◦瘭疽　指尖にできる腫物のうちでは痛みが最も甚しいのでよく世の中に知られて居ます、度々申しますが指は様々な物に觸りますので傷ができ易く隨て夫から黴菌が入込んで膿めば瘭疽となるのであります。外の所の膿だのに比べて此方は何故此様に痛みが激しいかと申しますと、もともと指尖は人の身體の中で一番物の感じの鋭い箇處でありますから隨つて神經が澤山にあり、夫れに皮膚が割合に厚いので傷が腫れると張切る力が強く此二つの原因で痛みが堪難くなるのであります。瘭疽も輕症なのでは罨法を行つて冷やして置く許で治る事もありますが重くなりますと、又骨迄腐敗れて仕舞には其指を全く切斷致さなければならぬ様な事にもなり、或は又手の腱を侵しますと腫物は治つても後で其指だけが動かぬ様になる事もあります、特に此部分は皮膚が厚い爲に下に膿液が澤山に溜つて居ても夫が餘所の様に黄く見立つ事が少く、只腫れて少許り白く見える位に過ぎませぬから夫れに油斷はできませぬ。僅か數日の手當が後れた爲に生れも附かぬ不具になる様な例は幾らもありますから是は一日も早く醫者の治療を御受けになる方が安全であります。

（以下次號）

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（二四）活ける家の電氣装置

一本の電線を傳ふて信を東西に通じ得ると云ふは、實に驚く可き發見でありますが人體の中には生れながらにして一の電氣装置が備へられてあつて、其電線は恰も蜘蛛の巣の様に全身に行き渡り、身體各部は之によつて頗る神速に其信を通じ合て居ります。此電氣装置を

神經系統と云ひ、腦と云ふ本局に於て幾百千萬の神經細胞は盛んに神經流 Nervous fluid と云ふ電流を起して居ります。而して普通の電流が電線を傳ふて流れる樣に、此神經流も亦た神經と云ふ白色の線を傳ふて全身に行き渡るものであります。腦と云ふ本局から出る神經の數は都合

十二對の腦神經

と稱するもので、鼻へ行つて香ひを司るのが嗅神經、眼に行つて視ることを司るのが視神經、眼の圍の筋肉へ行つて眼の運動を司るのが動眼神經と滑車神經と外旋神經、額から齒や顎や頰へかけて其感覺を司るのが三叉神經、顏の肉の運動を取り縮つて居るのが顏面神經、聽覺を司るのが聽神經、舌から咽喉へかけて行つて居るのが舌咽神經、肺とか心臟とか胃腸とか云ふ內臟器に分布して居るのが迷走神經、背筋の或ものへ行つて居るのが副神經、主として舌へ行つて居るのが舌下神經であります。若し是等の神經が一朝何等かの障碍を受くる時は、恰も電線に故障のあつた時電氣が不通になる樣に、必ず一定の病氣を起すものであります。例之ば視神經に故障があれば視力に障碍が來、齲齒の爲めに三叉神經が直接に冷水などに觸れる時には絶へ難き齒痛を感じ顏面神經が麻痺する時には左右兩半の顏面が不等になつて表情運動も出來ぬ樣になります。

神經系統と云ふ電氣裝置には、腦と云ふ本局の外に

脊髓と云ふ支局

があつて、此支局からは都合

三十一對の脊髓神經

が分派されて居ります。脊髓は脊柱と云ふ空洞の中にあつて、上は腦髓と連り、腦髓と等しく灰白質と白質とから成り立つて居ります。此白質は神經纖維と云ふ細い白い電線の集合で、腦及び脊髓から出て廣く全身に分佈して居ります。此神經纖維には二種類あります、一は

知覺神經

と云つて、痛い、擽い、熱い、冷いと云ふ様な身體の感覺を司るもの。他は

運動神經

と云つて、主人たる精神の命令を夫れ〱の筋肉若くは靭帶へ傳へて、坐臥進退等の運動を營ませるものであります。此二種の神經は決して其役目を間違へると云ふこと無く、知覺神經は何時も感覺を、運動神經は必ず運動のみを司るものであります。而して斯ゝる神經は、本局及び支局である腦及び脊髓中の

神經細胞と云ふ電池

に連り、此電池から起される所の神經流を傳達るものであります。夜間睡眠の時には此電池も使用されずにありますが、『イザ』と云ふ場合には盛んに神經力と云ふ電氣を起し、一秒間に百四十「ヒート」と云ふ驚くべき快速力を以て神經内を傳はるものであります。而しながら此電池の働きも練習によつて始めて活潑になるもので、吾々の智識と云ふも要するに此練習の結果であります。

足も利かず、舌も廻らず、只牀上に無心の姿で横つて居る嬰兒を見れば、何事もして居らぬものゝ様に見へますが、實は頗る忙がはしく、其神經細胞に種種の義務を敎へ込みつゝあるのであります。其手を動かすのも、其聲を放つのも凡て新しい神經細胞が働くからで、漸次練習を積むに從ひ其運動も確乎し其聲も明瞭になつて來るものであります。

神經細胞は思考へる事は出來ぬが、其敎へ込まれた所を能く記憶するものであります。而して一度び或事を敎へ込まれた細胞内には、必ず一定の變化を起して最早や他の新しい事を記憶することの出來ぬ様になります。故に誤つて好ましからぬ事を神經細胞に敎へ込んだ時には、成るべく他の新しい神經細胞を呼び起して意の欲する如く敎育しなければなりません。此の如くすれば此新細胞は益々活潑敏捷に働き、舊細胞は漸次頽敗破滅し行く様になります。神經細胞の記憶した事が腦から出て身體各部に傳はる

か、或は身體各部から神經纖維を傳つて腦に入れば茲に腦と身體との間に

　神經力の通路

が出來、同樣なる事柄が再び腦に出入りすれば、其通路が更に容易圓滑となり、幾度びとなく斯ゝる事が繰り返へさるれば遂に全く習慣となり、特別の命令が無くても無意識的に行はれる樣になります。例へば小兒の步き初めは、精神の命令通り一步〳〵踏み出すものでありまするが、漸次之に慣るゝ樣になれば、特別の注意を拂はずとも我知らず步行する事の出來るものであります。吾々の見聞きする事柄が凡て斯ゝる通路を造つて、腦に出入りするに連れ、やがては

　其人の性格を形ち造る

ものであります。人の周圍の事情を見て、其人の性格の凡そ判定されると云ふのも此爲めであります。其年齡が若ければ若ひ程隨意の通路（言ひ換ゆれば隨意の性格）を造ることも亦た容易で、最初の習慣が其一生に及ぼす影響は頗る大なるものであります。故に他日音樂家を以て世に立たうと思ふ人は小兒の時から之を習ひ、巧みに外國語を操らうと欲する人は幼少の時から其神經細胞に敎へ込まねばなりません。一度び見た事、聽た事、嗅いだ事、觸れた事、味つた事、嘗て一度び考へた事、學んだ事、爲した事などは凡て神經細胞の中に貯へられるもので、云はば

　神經細胞は一つの貯金箱

の樣なものであります。即ち智識や經驗の仕舞ひ込まれる貯金箱で、何時でも入用の時には必ず引き出して隨意に運用るべきものであります。故に幼少の時から善事善行を見たり行つたりしなければ、神經細胞は遂に惡事惡行のみを覺え込み、善に移ることが頗る困難になります。米國の諺にも

　年老つた犬には新しい藝は敎へ込まれぬ "You can not teach an old dog new tricks".

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふ事があります。

『流れぬ水は腐敗り、使はぬ道具は錆る』と云ふ獨逸の諺の通り、神經細胞も日常たへず使ふ様にしなければ、遂には漸次其用を辨せず、一旦覺え込んだ事迄も忘れ果てる様になります。地中にのみ住つてゐる鼠の一種は眼を使用しない故失明になり、昔のマンモスと云ふ洞窟に住まつて居た魚類も光線にあたる事がなきためみんな盲目であつたそうであります。手足の筋肉細胞でも須臾く使用しないで居ると頗る力が弱つて來て、十分なる働きをする事の出來ぬ様になります。故に我々は毎日神經を使用して、其働きを敏捷活潑にしなければなりません。然かし過度に使用すれば神經細胞も疲勞して、恰も疲れ果てた勞働者が居ずまゐをくずして他愛も無くくづをれる様に、其働き鈍く、其形狀は變化して小さく、他の細胞と手を取つて互に働くと云ふ元氣も消失なつて來ます。此際茶、咖啡、酒、葡萄酒の様な興奮劑を與ふれば、再び神經細胞も一杯機嫌となつて働くが、其後の疲勞は更に一層甚しい。故にかゝる興奮劑を多量に飲用するのは、神經をして益々疲勞させるものであります。

女子の身體（四）

三田谷啓

骨盤の大要を終つたから、次で生殖器のことに移り極めて簡單に述べて置くに止めやうと思ふ。

生殖の作用は、人間生活に於て、大なる役をつとめるものであつて、生殖器は、種族を播殖するために缺くべからざるものである。

婦人の生殖器は、外生殖器と内生殖器とに別ち更にこれに乳房をも附屬せしめるのである。

外生殖器は、外陰部と稱せらるゝ部分にして、大陰脣、小陰脣、陰核、前庭、膣口、尿道口、會陰、

陰阜等に別つ。

大陰唇は、陰門の左右にある皺襞にして、其質は、延び易く、內面は滑にして常に濕潤して居る。

小陰唇は、大陰唇の內側にある所の粘膜の皺襞にして、大陰唇に比すれば、うすく且つ小い、其上端は二つに分れて、左と右から、陰核を圍擁して居る。

陰核は、男子の陰莖に一致するところの小さき丸き隆起物にして、其感覺は頗る鋭敏である、そして勃起性を有して居る。

前庭は、兩陰唇上半部間にあつて、其中央部に尿道の口が開いて居る。

腟口は、外生殖器より、內生殖器に移る入口であつて、處女では薄き膜にて其大部分を閉ぢて居る、是を處女膜と云ふ、成年のころに至ると、この膜は破れて、處女膜の痕がのこる。

會陰は、大陰唇と肛門との間の部分を名けらるゝものであつて、多くの筋肉がある、その質は、著しく延長性をもち、分娩の時に動もすると破裂を來す場所である。

陰阜は、陰核の上方に位して、皮膚の下には多くの脂肪を貯へ、少しく隆起して居る、思春期になると陰毛を生ずる。

乳房は、乳汁を分泌し、小兒を哺育する處の機關であるから、婦人にとりては、至極大切なものである。そして生殖とは、一種の關係を有して居る。位置は、胸の前側に左右各一個あるを普通とす、時としては、其外に現るゝことがあるが、それは破格である。

男女共に小兒の時代にありては、其形狀小さくして別に大した差はないけれども、思春期に至ると、俄に發育して丁度鐘の樣な形になる。其中央の尖端に有色の隆起物が出來る、これは乳嘴と稱し、こゝには數個の乳の出る管が開口して居る。乳嘴の周圍に色のついた圓い部分がある、これは乳暈と稱し、處女では淡赤いけれども、妊娠をすると黑くなる。乳嘴は感覺過敏にして勃起性あり。乳房中には、乳

をつくる乳腺があつて、それから輸乳管に行き分泌されるのである。（以下次號）

育兒

離乳の事

醫學士　河野衛

離乳といふのは、俗に言ふちばなれの事で、小兒が一定の年齢に達してから、母の乳を廢して、他の食品に移るのを指すのであります。

我國は、昔から、立派な母乳國でありまして、大低の子供は、皆母の乳か、或は媼母の乳で養はれて居ります、是れは、子供に取つて、此上も無い幸福な事で、誠に結構な事であります、西洋では、生活が困難であつて、女も外に出て、色々な仕事をしなければならぬ所から、母の乳が飲めなくて、牛乳で育てられたり、或は他の榮養品で養はれて居るものが誠に多うあります、又は、婦人の社交が盛んであつて、母の乳は、十分に出て居ても、其子に、牛乳を與へて置いて、自分の乳を飲まさない婦人が中々多いといふ事であります、或は、其他種々な虚榮心からして、授乳をしない女が尠くないのであります、それ故に、日本では、小兒の死亡數が、尠いけれども、西洋では、中々多いのであります。

併しながら、子供を養育するには、母乳に優る品は無いのでありますけれども、一定の年齢に達すると母の乳では、最早子供の身體を養つて行く事が出來なくなるのであります、此時には、乳の中の榮養價は、小兒の發育に比して、甚だ尠くなつて居りますから、小兒の身體を養つて行く事が出來なくなるのであります。

それ故に、何時迄も母乳を與へて置くべきものでは無くして、一定の時期には、是非共母乳を廢して、他の榮養品を與へなければなりませぬ、即ち離乳と

いふ事を斷行するのであります。

それなら何時離乳を行ふべきものであるかといふに之れは、學者の間に、色々な說のある事であつて、一定は致して居りませぬけれ共、生後八個月から十個月或は十個月から十一個月といふ人があります、固より、此離乳を行ふには、小兒の身體の榮養の有樣、身體の强弱に顧慮しなければならぬ事でありますから、一定は致して居らぬのであります、大體誕生前後と心得て居れば、差支はありますまい、それから、季節の暑い時六月から八九月の頃には、此離乳を行はぬ方が宜しうあります。

然らば、離乳を行ふには、如何なる方法でやるかと申すに、此れは、出來得る限り徐々とやつて、決して、突然と始めぬやうにするのであります、即ち大抵二週乃至四週日の間に掛つて、やるのであります、然し、若しドーシテモ牛乳を飮まぬ時には、急速に母の乳を止めて終はなくてはなりませぬ、それで、母乳を止める時分には、始め先づ、一週間は、母乳の傍ら一日一回牛乳を與へ、次の週になると二回とし、第二週目の終り頃には、三回與へ、第三、第四週目位には、全然母乳を廢めて、スッカリ牛乳に代へて了ふのであります、要するに、漸次に母乳を廢めて、何時の間にか、スッカリ牛乳に代へて了ふのであります。

母乳を飮んで居る傍ら、ドーシテモ牛乳を飮まぬ場合には、突然母乳を止めて、牛乳に移る事とするのであります。

與へる牛乳は、小兒の年齡に應じて、水を加へて稀釋し、或は砂糖を加へ、漸々と純乳にするのであります、或は肉煎汁をも與へます、又小兒の發育が佳良で、齒が數枚も生えて來た場合には、半熟に煮た卵又は牛乳で煮た米粥、或は牛乳にパンの小片を加へたもの、或は、肉煎汁で造つた粥杯のやうなものを與へるのであります。

以上は、離乳の筋道の所だけを略述したに過ぎませぬが、言ふは易く、行ふは難しで、實際此離乳とい

ふ事は、家庭に於ては、中々行はれぬ事であります、實行さへする氣で居れば、出來るけれ共、其實行しようと決心する人は、誠に尠うあります、それには、色々の理由がありますが、殊に我邦では、昔から容易に離乳をせぬ習慣があります、それは、小兒が可愛相であるからといふのが一番多うあります、或は、母乳を永く飲むと、子供の發育が良いと迷信して居る向もあります、そこで甚しきに至つては、二歳三歳四歳頃迄も母の乳を飲ませて居る人もあります。

一歳以上にあつても、永く母乳を續けて居ると、其小兒は、皮膚の色が蒼白で、發育が不良であります。その上、誕生前後になると、色々なものを食ひたがつて、手を出しますから、親の方でも、ツイツイ色色なものを與へます、母乳の傍ら、米飯、煮肴等其他大人の食つて居るものを與へて居ります、それで其時分には、母の乳は、小兒の榮養に足らず、他の食品も、定まつて居らぬ、即ち小兒の身體に適當した食物が與へられて無い所から、小兒身體の榮養が衰へるのであります。

牛乳は、小兒が嫌ふからといふので、牛乳を與へずに、直に米飯を與へて居る人が多うあります、牛乳が嫌いといふ事は、滅多に無いものであります、それは、與へる方法を誤まつて居るからの事であります、母乳を廢する事をしないで、申譯に牛乳をやつて見たのでは、牛乳が飲めるやうには、中々なれませぬ、又菓子類抔を與へ過ぎたり抔すると、牛乳も飲むものではありませぬ。

昨年の夏私は、小兒の急性胃腸障碍の患者を多く治療致しましたが、何れも結果が惡くて、死亡するものが多くありました、其年齢は、誕生前後のものに最も多くありまして、人工榮養のものが多く、中には、母乳、媼乳の子供もありました、それで、此離乳時期に食物の與へ方を誤まつて、其の爲めに胃腸障碍を起したものも尠くありませぬでした、此誕生前後といふ時期は、色々なものを食べたがる時

でありますから、餘程深い注意を拂はないと、大なる失敗を招く事になります。

牛乳が嫌いであるといふのは、まだ牛乳を飲ませる習慣の付け方が足りないからの事であります、先達て、或る患者で、滿二歳になる男の子を見ましたが今に媼母の乳を飲んで居り、傍ら米飯抔を食して居る、それで牛乳はと問ふて見ると、嫌つて飲まぬといふ事でありました、私は、是非之れは、媼乳を廢めて、牛乳に代へなくてはならぬといふ事を諭して置いて、直ちに、全然媼乳を廢して、牛乳を與へて見た所が、一向受付けぬ、匙で口に入れると、皆吹き出して了ふ、併し一切何にも與へないで、其儘にして置いた所、一日一夜少しも飲まなかつたが、次第に空腹になつて來て、二日目の朝には、少し許り牛乳を飲み始め、其次の三日目からは、幾何でも牛乳を飲む事が出來るやうになつて來ました、始めの一二日は、泣き通しでありましたが、一切何にも與へずに置いたら、忽ち牛乳が飲めるやうになつたのであります、牛乳が嫌いでは無かつたのです、親の方に斷行の勇氣が缺けて居たのであります。

離乳を斷行せずに、永い間母乳を飲まして置くと小兒の身體に色々な障碍を來し易いものであります、西澤醫學士が、小兒科教室で、種々調査研究せられました結果に依ると、離乳を早くやつたものは、齒の生え方が早いが、之れに反して永く母乳を續けて居る小兒は、其齒の生え方が後くれる、又早く離乳したものは、齒の生える時に障りの起らないものが多いが、離乳の遲い小兒には、此障碍が多い、それから歩行も遲く始まる、といふ事であります、又同學士は、種々の點から觀察して、離乳期は、齡九個月と定められて居ります。

以上申し上げましたやうに、母乳榮養といふ事は、此上もない結構な事であるけれ共、一年以上も續けては、小兒の身體に色々な故障を生じて來るから、一定の時期が來たら、必らず母乳を廢して、牛乳に代へる卽ち離乳を斷行しなければならぬものである

といふ事をお話し致したのであります。

學童の看護

秋山柴朗

小兒が稍長じて、學校へ通ふと言ふことは、小兒のためには、生活上の一大變化であります、それですから、從て、小兒の精神や、身體に變常が起きて假令病氣にならぬまでも、折角成長しつゝある若葉が、元氣を挫けられることがあるによつて、子女を持てる親達は、十分の注意をせねば、とり返しのつかぬことになります。

子女を完全に育て上げることは兩親に與へられた貴い務めであるから、此貴い務めを果すためには、念頭より常に注意を離さないと言ふことが大切であります。

朝早くから、小兒を起して、課業の下しらべをさせることは、これは餘程考へ物です、只無闇に成績の優勝ならんことにのみ苦心して、身體の事を忘れて居る間に、小兒は、恐るべき害を被つて居ることがある。

でありますから、登校前の課業は、何人にも之を奬勵すると云ふことは出來ませぬ、又素より其年齡の程度も斟酌せねばなりませぬ。

然らば何故朝の下調べが、害を醸すことがあるかと申しますると、一つは此ために早くから、子女を起して、睡眠の時間を殺ぐのと、一つには、此ために學校で受ける授業時間に於て、人よりも早く疲勞を來すからであります。除外例のあることは、素よりのことです。

して見ると第一に考ふべきことは、小兒の睡眠の問題であります。

小兒はどれ丈け眠ればよいのであるか。

と申しますると、極めて大體に言ふと。

六歲乃至八歲では　十一時間

九歳乃至十歳では　十時間乃至十一時間
十一歳乃至十二歳では　十時間
十三歳では　九時間半
十四歳乃至十五歳では　九時間

それより後は、平均八時間半の睡眠を要することになつて居ります。

それでありますから。

學校兒童に規則正しく就牀せしむる習慣をつける

ことが必要であります。

就眠に先ち、安眠を妨げ又は、容易に、睡眠をとめる樣な事柄は、すべて、これを避けねばなりませぬ。それであるから、就眠の前に、劇しい六ケ敷課業をさせたり、又夕食の後に、學校の仕業を强いるとか、牀につく前に種々なものを飲んだり、喰べたりしては、それが睡眠の妨げとなります。又

就床前には、顏と手と頸は十分に洗はせねばなりませぬ。

齒を磨かせることも必要である。

こんなことは、些細な樣であるけれども、習慣性に行はせて置くと、やがては、それが、性質ともなりて、實行しないと却つて、自ら不愉快を感ずるやうになるのです。

又小用のことも注意せねばならぬ、晩の食事は、どちらかと言へば、少しひかへ目にして置く方がよろしい。

寢室は、どう言ふのがよいか

と申しまするに、無論廣い室で、清潔で、靜でなければなりませぬ。

睡臥の位置は、成る丈け安樂にして、頭は少し高くし、被物は、輕いものを用ひる方がよろしい。

寢室の溫度は、どれ丈けを必要とするか

と言ふに、これは、其小兒の年や、健康の度によつて一概に申上げることは出來ませぬが、小學校の兒童では、冬の夜は、持續暖爐の樣なもので、室を少

し暖める方がよろしい。

あまり厳しい事をやらせると言ふこと、痩せたものや弱いものや、血の少い小兒は、眠つて居る間に、又は起きた時に、自分の身體から溫度を奪われるのでこのために疾病をうける事がある。

寢具は、毎日之を乾したり、又叩いたりして、清潔に保ち、不潔なものが附いた場合には、早く洗濯して、清潔にするのが大切であります。

うす暗い室の中に小兒を臥させて、晝と雖も牀をあげず、夜來れば、又もぐり込む樣なことは、田舍の方へ出て見ると、決して珍らしくはない、が、虱や蚤と共寢をするのみならず、病を起す黴菌と一緒に中よくして安眠するのと同じである。

單に寢具の掃除のみならず、日中は、窓や、硝子をあけて、室内の塵や埃をはき出し、よく空氣を通らして、心地よくして置くことが大切です。

眠る室は、どんな處でも叶わぬなどと申す御方がありますが、どうして、どうして、これ程大切な處はありませぬ、一夜の生命を預ける所であるから、輕卒に付すべきことでない。

自分の身體は、自己の財産中、最も大切な財産であるが、而も多くの金を投じて金庫を買ひ、此中に金銀を入れて、盜賊や、火災を避けんことを企畫して居る人が多いのに、何故自己の最高財産を預ける寢室のことに思ひ至らぬのでありませふか。

小兒は如何にして毎朝牀より離るべきや。

小兒は、朝起きるには、人から起して貰はずして自らで起き、而も正規にこれが日毎日毎に實行されねばなりませぬ。

起きてから、學校に行くまでには、中々時間がかゝる、即ち學校に行くまでには、洗面もする、衣服も着ねばならぬ、朝食を濟まし、大便も整へて置かねばいけないと言ふ風に、中々用事があります。

學校の道具は、其朝になつて、まごつかぬように、前の晩に、チャンとよく整へて置く方にするがよろ

しい。

朝の飯をあわてゝ喰べることは、よくない、時間が少なかつたり、又無用の時を費したり、或は、厨の方で要意が出來ぬ場合には、小兒が學校の始まるのに後れはせぬかと、心配して、十分に喰べもせず、又はあわてゝ喰べて、學校に走つて行く、すると直ぐに授業が始まる、まだ喰べた食事が、消化する暇がないのに、課業をやらねばならぬ。

正午が來ると、腹が減る、辨當は、少い、さては、夜の食事の時に多く喰べる、眠られぬ、遂に、胃腸を害すると言ふ始末になるのです。

小兒の朝の食事は、滋養の多いものがよろしい。

例へば、肉、パン、卵、牛乳、或は牛乳の中へ少し茶を加へたものなど。

斯くて食事がすんだら、淸水でよく口を洗つて、口の中に食事の殘り物を貽さぬやうにすることが大切であります。

（以下次號）

家庭衛生

衛生雜話

H。S生

（三）國民病（上）

國の盛衰は、國民の健否によつて岐れるので、國民の身體と精神とが健全であれば、其國民は確に健全な國家を造ることが出來る。

砂の上に建てた上は、忽にして崩れてしまふ、不健全な國民は、其國家を腐らして、そして病的にしてしまふ。

されば國民を健全にするには、どうしても各個人が強くならねばならぬ。

然るに予が此所に國民病と題したのは、果して何を意味するのであらふか。

今や國平に治まりて、平和の風徐ろに地をめぐる、國民の安寧これに過ぐるはなけむ、されど尙ほ此平安の時代にも、國民を殺す所の大戰爭が毎日續いて居る、同胞の幾百千人は、毎日此爲めに、討死をしつゝあるので、而も不名譽極まる戰死である。犬死である。虎は死して皮をとゞむと云ふが、此種の人は、死して毒を殘し行くのである。此戰爭が國民病である。予は此所には單に國民病として酒と花柳病の二つを擧げやうと思ふ。我國民が此酒と花柳病との爲めに、生產力を殺ぎ、財寶を棄て、害毒を購ひつゝある事を思へば、吐血の思ひをせずにどうして居れやふ。同胞の多くは、斯くして死につゝあるのだ、死に行くものゝあわれは更なり、殘されし者の不幸はいかばかりぞ。これを國民病と言はずして何と言ふべき、これを大戰爭と言はずして何と言ふべき。予は少しく其主要の點につきて、切に諸姉の注意と盡力とを仰がんがために少時筆を須ひて見たい。

世の中の惡しき半面を見て、或は家政の紊亂、風俗の壞亂、自殺、犯罪、疾病、棄兒等につき、其動機をつぶさに探り來らば、其多くは、酒或は淫奔の惡業に基して居る事を發見するであらふ。

これは、個人道德が高まり、家庭の風習、敎養が向上しなければ、いつまでも、此爲めに殺されねばならぬのであるから、殊に婦人の盡力を要求し度いと思ふ。

先づ花柳病の事から述べて見ると、一體此花柳病と言ふは、淋病、黴毒等を數へるのであるが、花柳病は素より日本の特有物ではない、西洋諸國にも汎ねく蔓延して居るのである。

我國の如きは、陸軍丈けにて、毎年平均五千六七百人の花柳病患者を出し、それ〳〵治療をうけて居るのであるが、此平均した治療日數を患者數にかけて延數にすると十五萬三千有餘名となり、これが每年日本の軍隊に於ける花柳病者であると言ふことになる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花柳病の蔓延を媒介するものは、賤業婦が主なものである。其他最も甚しきは密賣淫である。ある人の調査によると密賣者の花柳病は娼妓の七倍もあるとのことである。東京丈けにても、三萬乃至六萬の密賣者があつて此毒を流しつゝあると言ふ。全國の貸坐敷に拂はるゝ遊興费は實に二千萬圓以上に渉ると言ふではないか、斯かる高價を拂つて國民が、社會、風敎を毒し、家と身を捨てつゝあることは、何と言ふ情ないことであらふ。

統計の表によると徽毒の爲めに死亡するもの毎年九千人の多きに上ると言ふ事を聞いて何と驚くではないか。其戰死者の九千人のみが害を受けたのでは無い、此うちには、妻を毒したものもあらふ、小兒に不具の性を與へたものもあらふ。盜賊もあらふ。自殺したものもあらふ。

間接と直接の害を擧げ來らば實に、驚くべきことであらふと思ふ、假りに自己の害毒は、忍ぶべしとしても、而も其毒を子孫に傳へて、子孫をして永へに祖先の不品行を恨ましむるが如きに至つては、人生の慘事これに過ぐるものは無いと思ふ。然るに底事ぞ、世には此運命の爲めに、禍の世を泣いて送つて居るものが何人あるか知れぬ。

予は頃者箴言を讀み、古の智者が、如何に此不潔なる交情を惡み、且誡めて居たかを知る事を得た、左に其二三をあげて見よふ。

汝の若き時の妻を樂め、彼は愛らしき麀の如く、美はしき鹿の如し、其乳房をもて常に足れりとし其愛をもて常に喜べ、我子よいかなれば、あそびめを樂み、淫婦の胸を懷くや。

と訓め、更に筆を進めて。

娼妓の唇は、蜜を滴らし、其口は脂よりも滑なり、されど其終りは茵蔯の如く苦く、兩刃の劍の如くに利し、其足は死に下り、其歩みは陰府に赴く。

と述べて、其毒害と禍の大なるを訓へ、終りに

それ娼妓のために、人は只僅に一撮の糧をのこす

に至る、又淫婦は人の尊き生命を求むるなり、人は火を懐に抱きて、其衣を焚れざらんや、人は熱き火をふみて、其足をやかれざらんやと誡めて居る。

我等は更に進んで、酒の禍を覩て、これを誡めねばならぬ。

病人の榮養品

A。S。生

凡て消化し易い、榮養價の多い物で、病人にも用ゐらるやうな物を撰びまして、其料理法や獻立等も、可成お話致して、病人に害になるやうな事は、一々御注意致す積であります。夫で斯樣な食物は、此病狀の時には善くない、斯樣な病氣の場合には、此食物が宜い、此食品は、斯樣に料理すれば、病人にも用ゐて差支ないと云ふ事が、多少お分りになるだらうと思ひます。

尤も之を詳細に一々お話すると云ふ段になれば、醫者も料理人に成らなければならぬ次第でありますが遺憾ながら、左樣にも參りませず、先づ學者方の經驗と、生理學上の智識を基礎として、正確であると云ふ見當でお話致す譯であります。

水

水は、普通の意味に於て、榮養品と申してよい、而かも最も大切なものになつて居ります。他の食物は、水に較べると、餘程久い間無くて居られます。重病者、例へば窒扶斯患者、又健康人に於て試驗して見る時でも、只水の成分を以て居る液體さへ與へて置けば、何も其外の物を用ゐぬでも、一週間位保てます。

新鮮な水を飮むと感冒に罹る抔と云ふのは、西洋の俗人の云ふことでありますが、是は餘り御念の入た話であります。

併し病人にせよ、健康者にせよ、渴いたと云て、急に多量の水をぐひ飮するのは宜しくない、尤も身體

の熱した時や、熱ある病人が、新鮮な飲料水を適度に用うるのは害がありませぬ。病牀に侍する人は、右の原則に遵つて、其他の食物と同様に、常に新鮮な水を屢〻與へる事が大事であります。

扨て、善良な水といふのは、如何なる水であるか。従來水を飲むことに就ては、かなり注意もしますが其水の性質の良否の判斷に至ては、隨分等閑にされて居るやうであります。

現時の學問では、人體の内へ這入る空氣と水の中には、無數の有機物が有て、病の種を人間に持込むものである事を證據立てゝます。

彼の窒扶斯は、概ね不潔な水に因て起ると云ふことは、事實でありまして、一々の場合に、確かに不潔な水を用ゐたと云ふことが突止められぬでも、殆ど爭はれぬことであります、黴菌を含で居る水で洗た牛乳茶碗からして、窒扶斯に罹たと云ふのは、隨分ある例であります。又患者が飲だと云ふ井戸の水を檢査しますれば、多くは黴菌を發見する。而て種々でありますが、時には思たよりも非常に澤山の黴菌が居ることがあります。さうでありますから、流行する様な時は、飲料水と定まつた水は、其中に含まれて居る黴菌が、凡て確かに死でしまふ様に、沸騰するまで煮るやうにしなければなりませぬ。

水の種類

水は、之を所謂軟水、硬水、河水、泉水、海水などと區別致しますが、其軟水と申しますのは、礦物質(鹽類)が少く、炭酸の尠い水であります。河水、殊に平地を流れる河の水、湖水、池水などは、先づ軟水であります。

此軟水は、礦物質が足りないばかりでなく、何時でも、多少動物や植物の分解産物から來る所の有機質を混じて居ります。

有機物が多くないにしても、かなり「クロール」を含み、或は少でも「アンモニアク」を含むやうな水は、飲用してはなりませぬ。「クロール」や「アンモニア

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

クレの有害なことは別としても。此等の物質の有る以上は、其水には慥かに、有機物の化學的分解が起て、それで其の最後の産物たる「クロール」や「アンモニアク」が有るのだと云ふことが分かります。軟水、特に河や池などの水は、とても適當な飲料水と申すことは出來ませぬ。何故ならば、第一礦物質及び炭酸の尠ないので、之を飲でも更に爽快でない、所謂一向味がない。それから有機物、「クロール」や「アンモニアク」を含むで居る故に有害だからであります。

硬水は、澤山に礦物質を含むで居ります。殊に「カリ」鹽及「ナトロン」鹽、亦通常かなり多くの炭酸を含むで居ります。此等の成分、特に其炭酸が、水に爽快な味を持たせて、渇々しき好飲料水と銘をうたせる譯であります。

さういふ水を飲だなら、胃腑が石灰や「ギプス」に成るだらうと殊の外心配さるゝ向もありませうが、其心配は御無用であります。少々の石灰鹽は無害であります。腺病だの、佝僂病だのと申して、骨質の不十分な小兒には、骨組に此礦物質特に石灰鹽が必要でありますから、直接に之を藥力として用ゐます。

市中や村落のまんなかに在る井水は、餘程用心しなければなりませぬ。近所の高い處に牧場や、芥溜場などが在れば、其有機物の分解産物が、深く浸込で容易に泉水に混じます。尤も泉源が高い處に在れば此憂はない譯であります。

種々病人によりて、尤も醫者の相談が入りますが、飲料として適當な代用品を應用することが出來ます。其中でもよく愛用さる、飲料は曹達水(ラム子)でありますが、實際是は概して、特に熱の有る病氣の時は宜しいのであります。即ち炭酸を含むで居りますから、頗る氣持のよい、刺戟性の味が有て、且つ通常の水のやうに多量に飲まぬでもよい。又胃で酸が多く出來る傾のある時には、此れが誠に能くきゝます。併し餘り強く炭酸を含むで居る水とか、普通の曹達水でも、澤山に飲むとか云ふことは、害になり

ます。乃ち胃の中で、大部分の炭酸が遊離されますから、容易に胃を擴張し、或はさなくとも刺戟すると云ふ様なことになります。故に心臓病の場合にはこれを用ひぬ方がよろしいのであります。

普通の曹達水の代に、所謂天然酸泉、「セルテル」水「ギースヒウブレル」酸泉なども亦結構であります。

清涼飲料として、特に熱の有る病人には、酸性「リモナーデ」も亦與へて宜しい。是は、凡の飲料の中で、熱の有る病人には、最も清涼の效が有て、又小量を用ゐて、最も能く渇を止めるものでありまして患者の胃及消化の狀態に障がなければ、一向差支がありませぬ。併し之を濫用して、飲み過さぬやうに氣を注けねばなりませぬ。酸性「リモナーデ」を多量に飲みますれば、酸成生を手傳ますから、從て並はづれた消化の狀態を呈します。

砂糖水も、病人の飲料として、一般に用ゐますが、餘り價値がないやうに思はれます。前に申述た飲料などの様な清涼と云ふこともなし、砂糖ですから、兎角量も多くなりまして、胃中に酸を醸して、害をするやうなことになり易い。小兒には、適當に與ふれば、都合のよい、ふさはしい代用飲料でありませう。

其他種々な茶とか、葡萄酒類などは、醫者が特に處方した時だけ用うることにしなければなりませぬ。且此場合には、其言はれた用量を正しく守らなければなりませぬ。

滋養品としての乳汁

乳汁は幼兒にも少年兒童にも立派な榮養品であります。稍大きな子供には、輕い病氣の時、また永い熱性病の恢復期などに適當であります。

乳汁は、有機界から來る榮養品の中で、殆ど完全に身體を補ふに足る必要成分を含むで居る唯一の物でありまして、是ばかりを用ゐて、久しい間人體を强壯に養ふことが出來るものであります。其榮養價の大なるばかりでなく、消化も亦至て宜しい。此の榮養價の大なることゝ、消化し易いと云ふことは、健

患者にも病人にも、適當な食物たる第一の條件であります。此都合よき二つの性質を併有して居るので乳汁はあらゆる他の榮養品よりも優れて居る譯であります。

乳汁は、八〇％の水と、六％づゝの糖と蛋白を含むで居りますが、其蛋白は「カゼイン」といふものに成て、尙ほ八％の脂肪と、それから一乃至二％位の鹽類を含むで居るものであります。此の成立から見ますれば、乳汁の榮養價を考ふることが出來ます。また液體であるからして、消化し易いにきまつて居ります。凡て固體よりも液體の方が消化し易いのであります。

良い乳汁は、「アルカリー」性の反應を呈しますが、胃の中には常に少量の鹽酸があるので、乳汁の一部分は、剩の鹽酸と化合致します。胃液は、凡この蛋白質を溶解する「ペプシン」を含むで居りますので、容易に「カゼイン」を始末致します。此第一の消化作用が濟みまするど、液體のことでありますから、早速腸の方に參りまして、此處で其中に含まれて居る脂肪が、膽汁に逢ふて、忽ち消化されます、つまり乳汁の消化と云ふものは、至て容易に且つ迅速に出來るものであります。

乳汁は此の如く小兒の榮養に良好なるものでありまするからして、必要もないのに、母親の乳、若しくは乳媼の乳から離して、勝手に撰むだ代用品などを使ふと云ふことは、恕すべからざる不都合な仕打であります。西洋人は、よく之をやるのであります。支那で女の乳を賣買すると云ふことでありますが母たる義務を打忘れて女共には、誠に重寶な方法であります。

以上申述べた所に依て、種々な動物の乳もありますが、吾人の同類同族の乳、即ち母乳が最も宜しいと云ふことは當然の事であります。母乳は他の物に比して、最も消化し易く、且つ最も榮養に富で居るのであります。

吾々が、どうかして女の乳で需用を充たすやうに致

したいと思ひましても、奴隷的の授乳場を組織すると云ふ譯にも行かず、つまり哺乳動物の乳を用ゐなければならぬ次第であります。そこで普通に得らるる乳汁の中で、どれが最も良いか、即ちどれが最も能く、女の乳の代理になるかと云ふことになりますが、次に二三の乳汁を擧げて、其養分と消化方を比較して見ませう。

（一）人乳　は牛乳に較べると、蛋白質が著しく少なく、殆ど半分、鹽類も遙に少なく、脂肪も亦やゝ少ない、其代り水が多い。糖分は大概牛乳よりも多く尠なくとも牛乳位ある。

（二）牛乳　上に述べた所から見れば、牛乳は、蛋白も脂肪も澤山有て、元來は人乳よりも養分が多い。併し實際上には、消化がわるい。牛乳の蛋白質は、胃の中に於ては、人乳よりも、消化することが困難で緩慢である。それで牛乳を、人乳に近くするには蛋白、即ち「カゼイン」や脂肪を取除く譯には行きませぬから、之を稀釋めるのであります。それには水と半々にする。さうすれば蛋白と鹽との加減が丁度よくなる。併し是では、糖分と脂肪とが足りなくなる。そこで水と等分に稀釋めた牛乳に、澤山なだけの糖を加へる。之には乳糖が最も宜しい。乃ち半「リーテル」に五「グラム」程加へる。それから脂肪を少々（乳酪一匙）加へる。斯様に混ぜますれば、殆ど人乳に匹敵したものに成るのであります。

（三）驢馬及馬乳　は最も人乳に近いものであります。只糖分が多くて、「カゼイン」の含量が稍々少ない。

（四）山羊及羊乳　は最榮養分に富で居ります。脂肪と乾酪質を澤山含むで居りますから、乾酪を造るには、誠に適當して居ますが、消化の上では、榮養價に相當しませぬ。山羊の乳は、肺病には至極宜しいものでありまして、また羊乳よりも消化し易いのであります。併し山羊乳と羊乳は、只消化器の働の善い時だけ用うるがよい。

病人が、其の最も適當した、人乳を以て榮養を取る

ことの出來ない場合には、止を得ないから、先づ人乳の成分に最も近いものを撰ばねばなりませぬ。それで馬か驢馬の乳を得らる〻ならば、之を用うるがよろしい。

併し現今の狀態に於きましては、第三番目の牛乳を用ゐなければならぬと云ふ次第であります。乃ち牛乳なれば得やすく、且つ値段も安いからであります。之を小兒や病人に與へる時には、前に申述た樣に稀釋致します。只困ることには、是が商人の手を經るものでありますから、兎角種々雜多な贋物が出來て病人や哺乳兒の爲には、餘程注意して掛からなければなりませぬ。

煮沸した牛乳を飮むがよいか、生溫の牛乳を用うるがよいかと云ふ問もありませうが、是はどちらでも宜しい。脂肪ある乳を飮むがよいか、脫脂した乳を用うるがよいかと云ふ問に對しても、やはりどちらでも好きでうまいと思ふ方がよいと答へます。併し哺乳兒や、重病者、特に胃病患者に對しては、一々其種類を撰擇する要があります。それで一寸是に就ての注意を申上げて置きます。

生溫の乳は、かなり遊離炭酸を含むで居りますから、多量に飮む場合には、容易に胃が膨れる樣な不快な感のするものであります。牛乳を久しく靜にして置くか、或は煮れば、此餘計な炭酸が無くなります。

小兒や病人には、何時でも煮沸した乳を與へる樣にした方が宜しい。何故ならば、牛や山羊には、眞珠病と申して結核性のものが往々ありますから、胃の弱い者が、斯云ふ動物の乳を飮めば、結核に罹る恐があるからであります。煮沸すれば、凡ての病の種が無害になりますから、牛乳をよく煮るのは、確に危險を免る〻方法であります。

脫脂乳は、脂肪が少いので、榮養價は落ちますが、胃の弱い人には、特に消化し易いので適當と思はれます。

（以下次號）

雜報



○種痘法

曩に帝國議會にて協定せられたる種痘法は、いよいよ四月十三日法律第三十五號を以て、公布せられたり。今其全文を擧ぐれば左の如し。

種痘法

第一條　種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此限ニ在ラス

一　第一期　出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

二　第二期　數ヘ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

定期前一年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條　保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條　左ニ掲クル者ハ未成年ノ生徒、院生若クハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシム又ハ保護者ヲシテ其義務ヲ履行セシムヘシ

一　學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長、ソノ他首長

二　教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者

前項各號ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條　新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成年者ヲシテ一月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ其ノ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長（區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長以下之ニ準ス）ニ屆出ツヘシ

未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル場合ト雖前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條　市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護

者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得

前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ證ヲ交付スヘシ

第八條　市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戸籍吏ニ通知シ戸籍吏ハ戸籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條　市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條、種痘ヲ怠リタル者定期外ニ種痘ヲ受ケタルトキハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其ノ種痘ハ其ノ怠リタル定期種痘ト看做ス種痘ヲ受ケタル證跡不明ナル者定期外ニ種痘ヲ受ケタルトキ亦同シ

第二條ノ種痘ヲ受ケタル者ハ第一期ノ種痘ヲ了ハリタル者ト看做ス

第十一條　第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘證ヲ交付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ヲ採收スルコトヲ得

第十二條　醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條　醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條　當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　小學校及之ニ類スル各種學校竝幼稚園ニ於テハ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

前項ノ證書ハ種痘證ト同一ノ效力ヲ有ス

第十六條　地方長官ハ學校、育兒院、工場等ニシテ多數人ヲ集合セシメ又ハ之ヲ傭使シ若ハ之ヲ寄寓セシムルモノヲ指定シ其ノ費用ヲ以テ種痘ヲ施行セシムルコトヲ得

第十七條　地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十八條　醫師虛僞ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

一　第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二　保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第二十條　第十二條、第十三條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項、第四條第一項乃至第三項及第十五條ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十二條　本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主、戸主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附　則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ヘ歲七歲以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス

數ヘ歲八歲以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

○畜犬取締規則

東京にて飼犬の流行し來れるは著しきことにて、今年の一月より屆出たるものゝみにても十萬に餘れりとぞ。されば警視廳にては、左の如く取締規則を改め、この一日より實施することゝなれり。

一、畜犬は必ず之を繋留すべき事。

二、戸外に出す時は必ず箝口器を用ふべき事。

三、右二項を犯すものは三十圓以下の罰金又は二十日以下の拘留に處す

なほ此の三月が間に、人を咬める犬八十三、咬まれたる人百二十九人なりといへり。飼ふ人心せではあるべからず。また狂へる犬を往來の道に撲殺さむはよからねば、此月よりは、そを生擒ひて、所轄署にて瓦斯もて息を止むることゝなれり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會記事

○大日本婦人衛生會

收支決算報告書（自明治四十一年三月 至同 四十二年二月）

收入

一金五千四百參拾九圓六拾九錢九厘

內譯

金貳千七百六拾四圓六拾六錢四厘	前年度ヨリ越高
金貳千參百八拾四圓貳拾九錢	會費
金百五拾八圓五拾錢	寄附金懇親會費廣告料
金百貳拾九圓八拾五錢	預ケ金利子
金貳圓參拾九錢五厘	雜收入

支出

一金貳千六百貳拾圓七拾七錢五厘

內譯

金六百貳圓八拾錢	報酬及雜給
金六拾壹圓參拾八錢	備品費
金千貳百六拾六圓七拾七錢	圖書及印刷費
金七圓四拾四錢五厘	筆紙墨文具
金四圓七拾六錢	消耗品
金百拾五圓參錢五厘	通信運搬費
金百六拾參圓六拾六錢	集會費
金九拾九圓貳錢五厘	雜費
金參百圓	借家料

收支差引殘

一金貳千八百拾八圓九拾貳錢四厘

內譯

金貳千六百貳拾五圓	三井銀行預金
金六圓八拾八錢	東京貯蓄銀行京橋支店同上
金百拾圓九拾壹錢	振替貯金
金五拾圓	借家敷金
金貳拾六圓拾參錢四厘	手元有高

以上

○本會役員會

去る十三日午後二時より役員會を本會事務所に開き總會及び懇親會の事どもを協議せられしが其の散會せるは五時過なりき、當日出席の役員は左の如し。

濱尾作子　鳩山春子　岡田德子　高木かう子
山本多祕子　松平芳子　三浦敎子　岩下ゆか子
緒子悅子　小川孝子　吉武輝枝子　丹波貞子
田村きよ子　宮本樂子　（いろは順）

○高崎支會の名譽

高崎支會は、日露戰役の際、會員諸姉が國家の爲に盡瘁せられし功により、左記の如く御沙汰あり。

群馬縣　大日本婦人衛生會高崎支會

明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付銀盃壹個ヲ賜フ

明治三十九年四月一日

賞勳局總裁從二位勳一等子爵大給恒印

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○高崎支會

一月二十四日午前十時より高崎市赤坂町惠德寺に於て新年の初會を開く、出席者は會員同伴者合して百五十餘名、星野支會長先づ開會の辭を陳べ、次で會員一同オルガンに連れて君ヶ代を唱し、相川副會長御令旨を捧讀し、茶菓、晝食を供し、次に倉林軍醫は體格改良策に就て、木檜新聞社長は衛生の婦人に必要なることを論じ戊申詔書に及び華美を戒む、てふ題にて講演あり、終て手踊、謠曲、彈琴、二弦、落語等の餘興に移り、頗る盛會を極め各歡を盡して午後五時閉會せり。尙は當日來賓として本會の爲に盡力せられしは、乾宗太郎、倉林軍醫、塚越正六、高橋友齋、村田酉二、相川藤平、小林春造、津久井介夫人、小茂田上毛新聞社員、北村上野日々新聞社員、福田群馬新聞社員の諸氏にして、主人側として最も斡旋の勞を執られしは、星野會長、相川副會長長谷川、天利、齋藤、佐藤の幹事、相川、高橋、福田の評議員及び星野、秋田、土谷の特別贊成員等なり。當日左の寄附ありき。

一金壹圓也　津久井省巳君　一金壹圓也　土谷百子

一蜜柑壹箱　高草木かね子

○本會入會者

○事務所申込

●福岡市地行西町三二　通常會員　廣瀨みね子

○中川さう子紹介

●神戸市奥平野村字天王二九七ノ二　特別會員　植田しげ子

○横井秀子紹介

●府下豐多摩郡千駄谷村字原宿二〇〇　通常會員　大淵晴子

●府下豐多摩郡千駄谷村字原宿二〇一　通常會員　兒島藍子

○飯尾たつ子紹介

●埼玉縣立浦和高等女學校内　通常會員　藤卷さだ子

●埼玉縣北足立郡笹目村　通常會員　長谷川ふじ子

●埼玉縣北足立郡戸田村　通常會員　篠やへ子

●埼玉縣北足立郡戸田村　通常會員　日坂ふく子

●埼玉縣兒玉郡長幡村　通常會員　馬場たつ子

●埼玉縣北埼玉郡三田ヶ谷村　通常會員　熊倉くす子

●埼玉縣北埼玉郡鴻巣村　通常會員　小坂みね子

●埼玉縣北埼玉郡高柳村　通常會員　遠井よし子

●埼玉縣南埼玉郡櫻井村　通常會員　中村さは子

●埼玉縣南葛飾郡南櫻井村　通常會員　染谷ひろ子

●埼玉縣比企郡唐子村　通常會員　野原くま子

●埼玉縣入間郡古谷村　通常會員　岸野幾美子

○伊藤弘一紹介

●小石川區高田老松町四五　通常會員　井口あくり子

○山形支會

○友田ため子紹介

●　特別會員　清田千代子

○新潟支會

○鈴木ちゑ子紹介

●　特別會員　山田いち子

○轉居

●札幌區北十三條西四ノ一へ　三宅きよ子

●愛知縣西春井郡山田村字中小田井へ　松澤たつ子

●芝區高輪南町五十三へ　藤井すゞ子

●札幌區北一條東二ノ六倉次氏方へ　宮島むめ子

●相州鎌倉大町ノ原へ　本田悌子

●相州鎌倉雪ノ下へ　小倉すゞ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

緊急廣告

今井亥三松君編纂（第三版發行）

第三改正日本藥局方準據 **藥局備考** 全壹帙

（正價金拾五錢 舶來用紙堅牢 郵稅金貳錢 郵劵代用一割増）

本表ハ第三改正日本藥局方收載ノ常ニ藥局ニ貯藏ヲ要スル各藥品ヲ「イロハ」順序トシ其主治、效用、用量、用法ヨリ苟モ藥局整理上須要ナル條項卽チ

大人ニ對スル藥品極量○飽和液表○沒劑、煎劑調製法○日本藥局方從劇藥品目○日本藥局外從劇藥品目○配合禁忌藥○電氣藥液、○蒸氣吸入藥○皮下注射藥○人工浴藥液○滴量表○年齡藥物用量○容量比較表○布斤仙瓦比較表○瓦匁斤比較表○各國藥量比較表○灌腸藥○法定藥品名及慣用藥品名對照表○藥品服用時期

ヲ附記シ一目ノ下瞭然タラシム本表曩ニ定評アリ第二版ハ數ケ月ニシテ賣盡シ今又更ニ增補訂正ノ上第三版ヲ發行ス明治四十二年一月一日第三版改正藥局方實施セラル世ノ醫藥ニ關係ノ諸彥之ヲ座右ニ備ヘハ決シテ誤錯ノ憂ナシ

發行所 廣島市猫屋町（電話五五三番） **廣島衛生醫事月報社**

高峰博士創製 （消化新劑）

タカヂアスターゼ

澱粉不消化の一般徴候　醫學博士谷口長雄氏曰く「……澱粉不消化に因する主なる徴候は胃の膨滿、疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘若くは下痢等にして甚く營養の障害を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず」

胃腸の虛弱なる者は勿論病者虛弱者等に本劑を與ふれば食物の消化を迅速ならしむる爲め自然食慾亢進從て營養を增進す。本劑は粉末錠劑各大小容器入として各有名藥舖にあり類似模造品數多あり必ず高峰氏タカヂアスターゼと要指定、說明書御申込次第無代郵呈

佐伯氏創製 （滋養新劑）

グリコナール錠

北里柴三郎氏指導の下に醫學博士化學者佐伯矩氏が牡蠣の滋養成分に就き研究創製せる劑は滋養劑として肺病及一般病者虛弱者に必適なるのみならず之を用ゐれば自から臟を強め盜汗を制止し速かに體力を恢復して元氣を旺盛ならしむる特異の効顯あり

用量一回四錠宛一日三回用ふ各瓶百錠入として發賣せり各地有名藥舖にあり

グリコナール說明書は直接發賣元に要求せられよ無代郵送す

バークデビス （緩和下劑）

カスカラ糖衣錠

最も優秀なる緩下劑カスカラ、サグラダはパークデビス製藥會社が藥用として初めて治療界に提供したるものに係り同社は該越幾斯を服用に便ならしめんが爲に之を糖衣錠となせり本劑は單に緩下の効を有するのみならず一般に腸の強壯劑として稱揚せらる又不快の副作用例へば腹痛の如き症狀を呈せざるは殊に本劑の特性にして總ての藥物中常習便秘に對して第一の特効藥とす

用量　二錠宛一日三回又は頓服として三乃至六錠を空腹時に與ふ一定時を經て緩和爽快なる便通あり

三共合資會社

移轉!! 藥局開設!!

本會社は事業の發展に伴ひ今回日本橋區室町三丁目十番地に移轉致候に就ては當分の間本會社發賣品の藥名簽及其他の印刷物に記載しある町名番地は新舊混同しある事可有之候とも其本會社發賣品たるに於ては異なる事無之候間御懸念なく御買求被下度此段稟告致候也

東京市日本橋區室町三丁目十番地
三共合資會社

（本會社内に藥局を開設し社員藥學士越澤滿を其主任と爲し自ら親切正確に諸大家の處方調劑に從事せしめ候間藥品販賣部同樣御愛顧御引立を賜はり度切望仕り候）

東京市日本橋區室町三丁目十番地
三共合資會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新案特許 一〇三六二號
衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより舊式のもの〻如く硬からず肌ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

丸髷	金十五錢より金七十五錢迄
島田髷	金三十錢より金壹圓五十錢迄
銀杏髷	金二十錢より金六十錢迄
送料	各八錢

諸かもじ製造販賣

東京市神田區豐島町十七番地
【振替貯金口座一八一八八番】
田中金三郎

小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹
本郷三丁目 兼康
淺草駒形 百助
淺草駒形 紅勘
神田區須田町 三井屋
日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店
日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
橘町四丁目 角島村商店
日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

内務省衛生試験所試験済

孔雀印 セスクイ

効用の概要

消毒兼用

頭髪洗 襟垢油落
絹綿布 メリヤス類
毛織物類 フランネル
毛布洗濯 窓掛敷布
看護婦服 繃帯ガーゼ類
醫家手術服 硝子器類
銀器陶器 食器類
牛乳罎及鑵 ヨゴレ物一切

英國ブラン門會社
新發明特製專賣品
有効無害洗濯料
醫視廳免許◉旅行者必携

金五錢
金拾錢
金貳拾錢

東京市本郷區本郷貳丁目九番地
直輸入發賣元 前島丹頂堂藥局 (電話下谷八六九番)

御用ひ方

至極簡便にして手數を省き經濟大徳
益比類なし故に家庭の常備品として
壹本の御試用あらん事を希望す

販賣所は到る處の藥店小間物店にあり
本品は衛生上缺くべからざる洗濯料なり

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す ●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす ●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす ●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし ●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし ●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁す

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス ●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス ●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス ●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキニハ其旨事務所ヘ屆出ヅベシ ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新ニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス ●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は每月一回講話會を開き每年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三ケ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所高崎市寄合町五十番地

高崎支會

●會告●

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度御依賴申上げ候

振替口座東京　一〇六〇〇番

●去十二月の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十二年二月　大日本婦人衛生會

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり●女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家翻譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

佃速記事務所

東京麴町區富士見町五丁目九番地

電話番町四十八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ



○通常會員章

第參號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黑塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

○本會徽章料左の如し



第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介

下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓四半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

明治四十二年四月十六日印刷
同　年四月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十三號
（毎月一回二十日發行）

東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤清之丞

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷所　杏林舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN